

IBM DB2 Alphablox



## リリース概要

バージョン 8.3



IBM DB2 Alphablox



## リリース概要

バージョン 8.3

**ご注意!**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、65 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows (製品番号 5724-L14) バージョン 8 リリース 3 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

**Copyright © 1996 - 2005 Alphablox Corporation. All rights reserved.**

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC18-9606-00  
IBM DB2 Alphablox  
Release Overview  
Version 8.3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

# 目次

## 第 1 章 DB2 Alphablox 8.3 の新機能 . . . 1

Rational ソフトウェア開発プラットフォームとの統合	1
リレーショナル・キューブ機能の強化	1
ブラウザを限定しない DHTML クライアントのサポート	2
DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase のシングル・サインオンのサポート	2
新たにサポートされるプラットフォーム	3
アクセシビリティのサポート	3
追加の言語サポート	3
カレンダー制御機能の強化	4
ReportBlox の機能拡張	4
新しいオンライン資料コンテンツとユーザー・エクスペリエンス	5

## 第 2 章 DB2 Alphablox 8.2.1 の新機能 7

バージョン 8.2.1 フィックスパック	7
バージョン 8.2.1	8

## 第 3 章 DB2 Alphablox 8.2 の新機能 . . . 9

プラットフォームの拡張	9
新たにサポートされるプラットフォーム	9
グローバリゼーションと GB18030 認証	9
IBM Tivoli License Manager のサポート	9
DB2 Cube Views のサポート	10
リレーショナル・キューブ機能の強化	10
DHTML クライアントにおける継続的な技術革新	10
ドラッグ・アンド・ドロップのフル・サポート	10
ヒストグラム・チャート	11
トラフィック・ライトの機能強化	11
80/20 分析	11
ページ・フィルターの機能強化	11
新しい格子選択モデル	12
新しい DateChooser UI コンポーネント	12
レンダリング・パフォーマンスの向上	12
その他の機能強化	12
FastForward の機能強化	12
新しい ResultSetBlox	12
メタデータ用のレベル API	13

## 第 4 章 アップグレードおよびマイグレーション情報 . . . 15

DB2 Alphablox バージョン 8.2.1 フィックスパック 1	15
DB2 Alphablox バージョン 5.6 へのアップグレード	17

## 第 5 章 対処済みの機能拡張要求 . . . 19

バージョン 8.3 で対処された機能拡張要求	19
バージョン 8.2 で対処された機能拡張要求	19

## 第 6 章 対処済みの問題 . . . . . 23

バージョン 8.3 で対処された問題	23
アセンブリー・ワークベンチおよび例関連の修正	23
ブックマーク関連の修正	23
チャート関連の修正	24
データ関連の修正	25
DHTML クライアントおよび UI コンポーネント関連の修正	27
資料関連の修正	28
格子関連の修正	28
FormBlox 関連の修正	28
リレーショナル・キューブ関連の修正	28
Relational Reporting 関連の修正	29
PDF へのレンダリングおよび印刷関連の修正	29
プラットフォーム関連の修正	29
バージョン 8.2.1 で対処された問題	30
バージョン 8.2 で対処された問題	30
チャート関連の修正	30
データ関連の修正	31
格子関連の修正	32
一般的な DHTML クライアントおよび UI コンポーネント関連の修正	33
FastForward 関連の修正	33
Relational Reporting 関連の修正	34
PDF へのレンダリングおよび印刷関連の修正	34
プラットフォーム関連の修正	34
資料関連の修正	34

## 第 7 章 既知の問題と対処法 . . . . . 35

WebLogic 上の既知のインストール問題	35
Tomcat 上の既知のインストール問題	36
インストールに関する一般的な問題	36
既知のプラットフォームの問題	36
ユーザー・インターフェース	37
チャート作成	37
CommentsBlox	37
データ・マネージャーおよびデータ接続	38
DHTML クライアント	38
FastForward	39
Java クライアント	39
リレーショナル・キューブ	40
リレーショナル・レポート	40
印刷での PDF へのレンダリング	41
サーバー・サイド・プログラム	41
Telnet コンソール	42
WebLogic	42
WebSphere	42
既知のデータ・ソースの問題と対処法	42
DB2 OLAP Server と Hyperion Essbase の既知の問題	43
Microsoft Analysis Services の既知の問題	43

<b>第 8 章 使用すべきでない API</b>	<b>45</b>
リリース 8.3 - 使用すべきでない API	45
リリース 8.2.1 - 使用すべきでない API	46
リリース 8.2 - 使用すべきでない API	47
リリース 5.6 - 使用すべきでない API	47
リリース 5.5 - 使用すべきでない API	48
リリース 5.1 - 使用すべきでない API	48
リリース 5.0 - 使用すべきでない API	48
リリース 4.1.1 - 使用すべきでない API	49
リリース 4.1 - 使用すべきでない API	49
リリース 4.0 - 使用すべきでない API	49
<b>第 9 章 資料</b>	<b>53</b>
既存の Alphablox インストール先へのインストール	54

スタンドアロンのインフォメーション・センターと してのインストール	54
インフォメーション・センターおよび Javadoc への リンクの構成	56

<b>第 10 章 アクセシビリティ</b>	<b>59</b>
Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ ショートカットとアクセラレーター	60
ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボ ード・ショートカット	62
<b>特記事項</b>	<b>65</b>
商標	67

---

## 第 1 章 DB2 Alphablox 8.3 の新機能

IBM® DB2® Alphablox for Linux®, UNIX® and Windows® バージョン 8.3 では、Rational® ソフトウェア開発プラットフォームとの統合が実現され、さまざまなリレーショナル・キューブ機能の強化が図られています。さらに DB2 OLAP Server™ および Hyperion Essbase 用の、ブラウザーを限定しないサポート、アクセシビリティのサポート、追加のプラットフォームのサポート、およびシングル・サインオンのサポートが追加されています。バージョン 8.3 のオンライン資料には、チュートリアルやトラブルシューティングに関する情報など、新しいユーザー・エクスペリエンスと新しい内容が盛り込まれています。

---

### Rational ソフトウェア開発プラットフォームとの統合

Rational アプリケーション開発者と Rational Web 開発者が利用できる DB2 Alphablox Toolkit は、DB2 Alphablox コンポーネントを使ったアプリケーションとポートレットの開発を容易にするための Eclipse ベースのプラグインで構成されています。DB2 Alphablox Toolkit の各種フィーチャーを使用することによってアプリケーション開発者は、以下のことを実行できます。

- DB2 Alphablox の内容を使ってアプリケーションを作成する。
- 新しい JSP ファイルの作成時に DB2 Alphablox Tag Library にアクセスする。
- Content Assist を使用してタグを完成する。
- DB2 Alphablox アプリケーションの実行に使用できる WebSphere® サーバー・インスタンスを作成する。
- WebSphere 統合テスト環境に DB2 Alphablox をインストールする。

オンライン・ヘルプや参考文献などのユーザー支援を、Rational Developer で利用できます。さらに、入門時の参考になるチュートリアルが、「概説およびインストール」の中に記載されています。セットアップと構成のステップを実行することによって、Blox コンポーネントを含むアプリケーションを作成できます。

---

### リレーショナル・キューブ機能の強化

DB2 Alphablox のリレーショナル・キューブ機能を使って、スター・スキーマまたはスノーフレイク・スキーマとして保管されているリレーショナル・データの多次元分析を実行できます。リレーショナル・データのマルチディメンション表現を作成することができます。あるいは、DB2 Cube Views™ 内の既存のキューブ定義からメタデータを使用することもできます。

このリリースでは、リレーショナル・キューブに次のようなサポートが追加されています。

- 不規則で不均衡な階層。
- 算出メンバー。算出メンバーは、照会の冒頭で WITH MEMBER 文節を使って定義することができ、その照会でのみ使用可能です。

- **各レベルを順序付ける属性。** これは、DB2 Alphablox の管理ページを通して定義することができます。順序付け属性が DB2 Cube View 内に存在する場合、それも保存されます。
- **カスタムの順序付け属性。** カスタムの順序付け属性を使うと、ある 1 つのレベルのメンバーを、名前以外で順序付けすることができます。
- **HIERARCHIZE MDX 関数を使用したディメンション用のメンバーの順序付け。**
- **メンバー・レベルのプロパティ。** キューブ定義中のメンバー・レベルのプロパティは、PROPERTIES 関数を介した MDX 照会においてサポートされます。
- **名前付きセット。** 名前付きセットは、照会の冒頭で WITH SET 文節を使って定義することができます、その照会が存続する限り使用可能です。
- **ディメンションのデフォルト・メンバーの設定。** DB2 Alphablox 管理ページを通して、ディメンションのデフォルト・メンバーを指定できます。その後、DEFAULTMEMBER MDX 関数を使ってデフォルト・メンバーにアクセスできます。
- **ディメンションのデフォルト測定値の設定。** DB2 Alphablox 管理ページを通して、ディメンションのデフォルト測定値を指定できます。
- **NON EMPTY キーワード。** このキーワードを使うと、欠落している行または列を抑止できます。
- **集約用の新しい MDX 関数。** 集約関数には、SUM、COUNT、MIN、MAX、AVG、および MEDIAN などがあります。
- **さらに別の新規 MDX 関数。** その他、新しい関数として、ORDER、TOPCOUNT、TOPSUM、TOPPERCENT、BOTTOMCOUNT、BOTTOMSUM、BOTTOMPERCENT、NAME、UNIQUENAME、ITEM、および DEFAULTMEMBER などがあります。

詳細は、「Cube Server 管理者用ガイド」の中の『サポートされる MDX 構文』の章を参照してください。

---

## ブラウザーを限定しない DHTML クライアントのサポート

現在 DHTML クライアントは、Internet Explorer バージョン 5.5 および 6 以外に、Firefox 1.0.4 以降および Mozilla 1.7 をサポートします。どちらのブラウザーも、ReportBlox およびそれに関連したコンポーネントを使って作成された対話式的リレーショナル・レポートでサポートされます。さらに、ブラウザーを限定しないこのサポートによって、プラグインをインストールしなくても分析アプリケーションやポートレットの広範囲なデプロイメントが可能になります。

ブラウザーを限定しないサポートのためのアプリケーションの設計に関連した問題については、「開発者用ガイド」の『Web ブラウザー - Mozilla に関する既知の問題』を参照してください。

---

## DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase のシングル・サインオンのサポート

このリリースでは、Hyperion Essbase バージョン 7.1 で導入された Common Security Services のサポートが追加されています。このフィーチャーは、すべての Hyperion アプリケーションでのシングル・サインオンを可能にします。アプリケーション開発者は、Common Security Services に対する認証、信任状の生成、および DataBlox タグ属性を使用したその信任状の引き渡しを実行できます。Hyperion の

Common Security Services 2.6 および 2.7 (Hyperion Essbase および Hyperion Deployment Services 7.1.1、7.1.2、および 7.1.3) を介したシングル・サインオンがサポートされます。詳細は、「開発者用ガイド」の『Essbase および DB2 OLAP Server のシングル・サインオン』を参照してください。

---

## 新たにサポートされるプラットフォーム

このリリースで新たにサポートされるプラットフォームは次のとおりです。

- WebSphere 6
- SAP Business Information Warehouse (SAP BW) V3.5
- IBM Cloudscape V10.0、Apache Derby V10.0
- DB2 Universal Database™ for z/OS® V8.1
- Hyperion Essbase 6.5.7 および 7.1.3、Hyperion Essbase Deployment Services 6.5.7 および 7.1.3
- 追加の Linux プラットフォーム
  - Redhat Enterprise Linux 4
  - SuSE Linux Enterprise Server 9
  - 64 ビット・バージョンおよび pSeries®

---

## アクセシビリティのサポート

このリリースではアクセシビリティのサポートが追加されました。身体障害のあるユーザーは、次のようにして DB2 Alphablox アプリケーションにアクセスできます。

- ユーザーは、キーボードを使用してデータ分析アクションを実行することができます。
- ユーザーは、ホームページ・リーダーなどのスクリーン・リーダー・ソフトウェアを使って、GridBlox または ReportBlox に表示されたデータを聞くことができます。

アクセシビリティ・サポートを使用できるのは、DHTML クライアント、Relational Reporting ユーザー・インターフェース、および Internet Explorer 6 を介した DB2 Alphablox の管理ページにおいてです。このサポートは、米国社会復帰法令の第 508 条に準拠しています。この新フィーチャーの詳細は、『アクセシビリティ』のトピックを参照してください。

---

## 追加の言語サポート

このリリースでは、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、ブラジル・ポルトガル語、スペイン語、中国語 (簡体字)、および中国語 (繁体字) に加えて、さらに以下の言語のローカリゼーションが提供されています。

- アラビア語
- チェコ語
- ギリシャ語
- ヘブライ語

- ハンガリー語
- イタリア語
- ポーランド語
- ロシア語

DHTML クライアントも、アラビア語やヘブライ語などの双方向言語の両方向 (BiDi) テキストをサポートします。双方向言語のアプリケーションの設計に関する詳細は、「開発者用ガイド」の『双方向言語用の設計』のトピックを参照してください。

---

## カレンダー制御機能の強化

DHTML DateChooser UI コンポーネントを使用すると、小さなカレンダー・アイコンが横に付いたテキスト・フィールドを JSP ページに挿入できます。ユーザーは、このアイコンをクリックして小さなカレンダーを表示し、そこで日付を選択することにより、適切にフォーマットされた日付をテキスト・フィールドに入れることができます。DB2 Alphablox 8.2 でサポートされるのは、グレゴリオ暦だけです。このリリースでは、次のサポートが追加されています。

- アラビア語カレンダー
- 中国語カレンダー
- フランス語カレンダー
- ヘブライ語カレンダー
- 日本語カレンダー

アプリケーションにカレンダー制御機能を追加することについての詳細は、『カレンダー制御機能の作成』を参照してください。

---

## ReportBlox の機能拡張

PDF レンダリング用に、ReportBlox およびそれをサポートする Blox コンポーネントが改善されました。この新しい PDF レンダリング・エンジンによって、ページ・レイアウトの制御時の柔軟性が向上します。今後は、ヘッダー・テキストとフッター・テキストを指定し、XHTML を使用して任意のレイアウトをテキストに適用し、そしてヘッダーの高さとフッターの高さを設定することができます。たとえば、ヘッダー・テキストを次のように設定することができます。

```
<bloxreport:pdf
  headerText="<span style='color:blue'>Annual Report</span>"
  headerHeight="100 px"
  top="1 in"
  ...
/>
```

従来、PDF エンジンでは、スタイルシートや対話式コンテキスト・メニューを介して設定されたスタイルは無視され、テキストは常に固定スタイルにレンダリングされていました。この制限はなくなりました。新しい PDF レンダリング・エンジンでは、スタイルシート、インライン・スタイル・クラス、または対話式コンテキスト・メニューを介して設定されたスタイルが考慮されます。これまで、ボーダーの指定では、1.5in や 30px というように、数字と単位の間スペースを使用できませ

んでした。この制限はなくなりました。さらに新しいエンジンでは、精度拡張としてミリメートル ("mm") などの単位が新たにサポートされるようになりました。

---

## 新しいオンライン資料コンテンツとユーザー・エクスペリエンス

検索のパフォーマンスを向上してナビゲーションをしやすくするため、Eclipse ベースのヘルプ・システムを使用するインフォメーション・センターとして、DB2 Alphablox のオンライン資料を利用できるようになりました。さらに、情報を検索しやすくするために情報が再構築され、初心者向けの新しい入門用チュートリアルが用意されています。

### Eclipse ベースのインフォメーション・センター

DB2 Alphablox のインフォメーション・センターは、Eclipse ベースのヘルプ・システム上で稼働します。そのため、組み込みの検索機能およびブックマーク機能を利用できるので、情報の検索の容易性が大幅に向上しました。また、ヘルプ・システムには、ナビゲーション用のキーボード・ショートカットを使用する組み込みのアクセシビリティ・サポートも用意されています。

### 初心者向けの新しい入門用チュートリアル

DB2 Alphablox インフォメーション・センターには 4 つのチュートリアルが用意されており、その中で DB2 Cube Views を使って初めてのアプリケーション、初めてのポートレット、および初めての Alphablox キューブの作成を開始する方法が示されています。Rational Application Developer (RAD) ユーザー向けには、開発環境のセットアップ、DB2 Alphablox プラグインのインストール、JSP への最初の Blox の組み込み、および RAD 内のレンダリング済みの Blox の確認を実行する際に役立つステップバイステップの解説を含むチュートリアルが用意されています。

### 統合されたリリース情報

これまでのリリースの新着情報とリリース情報<sup>®</sup>は、「リリース概要」に統合されました。新しいフィーチャー、バグ修正、対処済みの機能強化要求、および推奨されない API など、このリリース独自の情報はすべて 1 箇所にとまとめられています。

資料のインストールと構成に関する詳細は、『資料』のトピックを参照してください。



---

## 第 2 章 DB2 Alphablox 8.2.1 の新機能

IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows バージョン 8.2.1 では、さらに多くのデータベース用サポートが拡張されています。バージョン 8.2.1 フィックスパック以降、DB2 Alphablox では、新しいプラットフォーム WebSphere Portal バージョン 5.1 もサポートされるようになりました。新しいフィーチャーについては、『バージョン 8.2.1 フィックスパック』および 8 ページの『バージョン 8.2.1』でそれぞれ説明されています。

入門用に 2 つのサンプル・ポートレットが用意されています。一方は、ポートレット JSP に Blox を追加するための基本のコード構造を例示しています。もう一方は、ポータル・テーマ・ユーティリティーです。これは、DB2 Alphablox ホーム・ページ上の「管理」タブの下にあるのと同じテーマ・マージ・ユーティリティーのポートレット・バージョンです。これを使えば、管理ユーザーとして DB2 Alphablox に別途ログインしなくても、各自のポータル内ですぐに同じテーマ・マージ・タスクを実行できます。ポータル・サーバーへのインストール後、どちらのサンプルもすぐに実行できます。

Blox を使用したポートレットの開発について詳しく学ぶ場合、「概説およびインストール」の『Blox コンポーネントで最初のポートレットを構築する』の章から始めてください。その章では、サンプル・ポートレットをインストールする方法と、Blox コンポーネントを使って JSP を作成する方法について説明されています。ここでは、ポータル環境で Blox を正常に実行するのに必要な基本の概念と技法が示されています。さらに、ポートレット開発の重要なヒントと、この資料内のポートレット開発関連のその他のトピックへのポインターも含まれています。

---

### バージョン 8.2.1 フィックスパック

IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows バージョン 8.2.1 フィックスパックには、以下のフィーチャー用のサポートが追加されています。

- WebSphere Portal バージョン 5.1
- Informix<sup>®</sup> Dynamic Server バージョン 10

WebSphere Portal バージョン 5.1 がサポートされるようになったので、ポートレット JSP に Blox コンポーネントを追加して、ポータル・アプリケーションに分析を組み込めるようになりました。中核となるフィーチャーは次のとおりです。

- ユーザーがポートレット内の Blox と対話している間は、ページは最新表示になりません。
- 提供されたポータル・テーマ・ユーティリティーを使って、ポータルのテーマに Blox の外観を合わせることができます。このユーティリティーを使って、指定したポータル・テーマのスタイル・プロパティを、DB2 Alphablox のテーマ内のものにマージして、表示を最適化することができます。
- 新しい Blox Portlet Tag Library を使用することによって、FormBlox と ReportBlox を含む任意のユーザー・インターフェース Blox または Blox UI コンポーネントに対して、ポータル・リンクまたはアクション・リンクを簡単に接続

できます。これにより、Blox または UI コンポーネントをクリックした時点で、ポートレットからポートレットへのメッセージング用のポートレット API を呼び出すことができます。

- ポータル・ユーザーは、DB2 Alphablox に対して別途サインオンする必要はありません。ユーザー・アカウント用のさらに別のセットアップは必要ありません。

---

## バージョン 8.2.1

IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows V8.2.1 では、以下の新フィーチャーに関してデータベースおよびプラットフォームのサポートが拡張されています。

- Informix Dynamic Server バージョン 9.4 および Extended Parallel Server バージョン 8.5
- Red Brick™ Warehouse バージョン 6.3
- DB2 OLAP Server for iSeries™ バージョン 8.1
- DB2 Universal Database for iSeries
- 製品のインストール中に選択した言語に基づく資料のインストール

サポートされているデータベースとそのバージョンの総合リストは、「インストール・ガイド」に記載されています。

---

## 第 3 章 DB2 Alphablox 8.2 の新機能

IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows V8.2 には、基礎インフラストラクチャーにおけるいくつかの機能拡張、データ・アクセスとデータ表示層における新フィーチャー、およびセルフサービス・レポート・アプリケーション・フレームワーク FastForward における追加機能が組み込まれています。

---

### プラットフォームの拡張

このリリースでは、グローバリゼーション、IBM Tivoli® License Manager、DB2 Cube Views、および新しいデータ・ソースとオペレーション・システムをサポートするためのプラットフォームの機能拡張がなされています。また、キューブ・エンジンも、さらに多くのスキーマと関数をサポートするよう拡張されています。

### 新たにサポートされるプラットフォーム

新たにサポートされるプラットフォームは次のとおりです。

- x86 上の Red Hat Enterprise Linux 3
- 64 ビット版 AIX 5L™ (バージョン 5.2)
- DB2 Universal Database バージョン 8.2.2
- DB2 Information Integrator バージョン 8.2、バージョン 8.1 (フィックスパック 2)

### グローバリゼーションと GB18030 認証

現在、DB2 Alphablox は、次の言語に翻訳されています。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- スペイン語
- ブラジル・ポルトガル語
- 韓国語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)

### IBM Tivoli License Manager のサポート

DB2 Alphablox では、ソフトウェア・ライセンス交付、および使用状況の管理とレポートを容易にするため、IBM Tivoli License Manager (ITLM) がサポートされるようになりました。

## DB2 Cube Views のサポート

DB2 Alphablox バージョン 8.2 では、DB2 Cube Views V8.2 および V8.1 のサポートが追加されています。DB2 Alphablox は、DB2 Cube Views のメタデータ定義を使用して、リレーショナル・キューブ定義を作成します。DB2 Alphablox に対してリレーショナル・キューブを定義し終わると、すべてのユーザー・インターフェース Blox 用のデータ・ソースとしてそれを使用することができ、それによってユーザーは、他のマルチディメンション・データ・ソースの場合と同じ方法で、そのデータと対話することができます。

## リレーショナル・キューブ機能の強化

DB2 Alphablox バージョン 8.2 では、リレーショナル・キューブ・エンジンにおいて、次のような機能が強化されています。

- **多くの追加タイプのスキーマのサポート。** 今後は、任意の JOIN 式によって結合された表集合を使ってディメンション階層を定義することができます。
- **追加の MDX 関数のサポート。** 新たにサポートされた関数には、以下のものがあります。
  - メンバー・ナビゲーション関数: Ancestor()、Ancestors()、Cousin()、FirstChild()、FirstSibling()、LastChild()、LastSibling()、NextMember、および PrevMember
  - サブセット関数: Except()、Head()、Tail()、および Intersect()
  - 時系列関数: PeriodsToDate() および ParallelPeriod()
- **メンバー属性のサポート。** メンバー属性を MDX 照会で使用できるようになりました。
- **パフォーマンスの向上。** DB2 Alphablox Cube Server の背後にあるキューブ・エンジンが使用する SQL 照会の数が減り、結果として、全体的な応答時間が速くなりました。

詳細は、「DB2 Alphablox Cube Server 管理者用ガイド」を参照してください。

---

## DHTML クライアントにおける継続的な技術革新

このリリースでは、ドラッグ・アンド・ドロップのフル・サポート、新しい図表タイプ、トラフィック・ライトの機能強化、80/20 分析のサポート、格子コンポーネントの選択を対象としたプログラマチックな制御の徹底化、および新しい DateChooser UI コンポーネントなどの、ユーザビリティ、機能性、およびパフォーマンスといった点で DHTML クライアントの機能が継続的に強化されています。

## ドラッグ・アンド・ドロップのフル・サポート

バージョン 8 リリース 2 より前の DB2 Alphablox では、ツリー・メニュー・インターフェースを持つデータ・レイアウト・パネルにおけるドラッグ・アンド・ドロップをサポートしていました。DB2 Alphablox バージョン 8.2 では DHTML クライアントでのドラッグ・アンド・ドロップのフル・サポートが追加されたので、ユーザーは GridBlox、PageBlox、および DataLayoutBlox の内部またはそれぞれの相互間で、ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップできるようになりました。ドロップ可能な場所までディメンションをドラッグすると、赤のバー標識が現れま

す。このドラッグ・アンド・ドロップ機能は、カスタマイズ・アプリケーションの基礎となる UI モデルでも完全にサポートされます。

## ヒストグラム・チャート

今後、DB2 Alphablox バージョン 8.2 では、ヒストグラム・チャートがサポートされます。ヒストグラム・チャートは、値のグループ (つまり、ビン) のカウントを表示することにより、データ分布を視覚化します。チャート内の値の範囲とビンの数は自動的に設定されます。アプリケーション開発者はこれらの設定値を、Alphablox Tag Library または Java™ API を使って指定できます。エンド・ユーザーはユーザー・インターフェースを通して、設定値をオーバーライドすることができます。

## トラフィック・ライトの機能強化

今後、トラフィック・ライト機能では、テキスト・ベースのトラフィック・ライトがサポートされます。次のような検索条件によるテキスト検索能力が提供されます。

- **含む値条件。**これにより、サブストリング一致が可能になります。
- **類似の値条件。**これにより、完全一致突き合わせと、ワイルドカード (0 文字以上を表す \* と、1 文字を表す ?) を使ったパターン・マッチングが可能になります。

加えて、エンド・ユーザーとアプリケーション開発者は、条件が成立した場合に、データ・セルだけではなく行全体または列全体を強調表示するかどうかを指定できます。

## 80/20 分析

アプリケーション開発者は Blox UI Tag Library を使用して、80/20 分析サポートを簡単に追加できるようになりました。80/20 分析によりユーザーは、全体的な値に最も寄与している因子の小さなサブセットを識別することができます。関連する Blox UI タグを GridBlox または PresentBlox に開発者が追加すると、Blox の右マウス・ボタン・クリック・メニューを介して 80/20 分析オプションが使用可能になります。このオプションを選択すると、「合計のパーセント」列と「合計の累積パーセント (Accumulated Percent of Total)」列がグリッドに追加され、全体的な値の 80% を構成する上位の寄与因子をリストし、残りは 1 つの項目としてまとめます。

## ページ・フィルターの機能強化

DB2 Alphablox バージョン 8.2 では、いくつかのページ・フィルターの機能拡張がなされ、GridBlox、PageBlox、およびメンバー・フィルターがシームレスな形で一緒に動作するようになりました。メンバー・フィルターでなされるメンバー選択と PageBlox でなされるメンバー選択とは同期化され、PageBlox は GridBlox の行および列からのメンバー設定を保存するようになりました。GridBlox と PageBlox の間でディメンションが移動されると、ディメンションのメンバー設定は保存され、ユーザーがピボットの前に持っていたデータ・ビューが維持されます。

## 新しい格子選択モデル

DB2 Alphablox バージョン 8.2 の新しい格子選択モデルを使うと、セル、行、列の選択のプログラマチックな制御を厳密化することができます。デフォルトで、データ・セルをクリックすると単一のセルが選択され、ヘッダー・セルをクリックすると行全体または列全体が選択されます。新しい格子選択モデルには、アプリケーション開発者がデフォルトの動作から、行ベースまたは列ベースの選択に変更するための機能が備わっています。

## 新しい DateChooser UI コンポーネント

DHTML クライアントの基礎となるユーザー・インターフェース・コンポーネントに、新しいメンバーとして DateChooser が追加されました。DataChooser は、テキスト・フィールドの隣にカレンダー・アイコンを追加することにより、Edit コンポーネントを拡張します。カレンダー・アイコンをクリックすると、編集フィールドに入れる日付を選択できるように、カレンダー・ウィジェットが立ち上がります。DateChooser の例を Blox Sampler で利用できます。

## レンダリング・パフォーマンスの向上

DHTML が前よりさらにコンパクトになったため、DB2 Alphablox バージョン 8.2 では DHTML クライアントのパフォーマンスの強化が継続されています。そのため、サーバーとネットワークの使用率がいっそう軽減され、初期ロード時間、スクロールのパフォーマンス、およびデータ・ナビゲーション操作の応答時間も含め、結果として応答時間が速くなりました。

---

## その他の機能強化

その他の機能拡張として、FastForward アプリケーション・テンプレート、DataBlox にカスタム結果セットを提供する機能、および特定のディメンションのレベルの情報にアクセスするための追加の API があります。

## FastForward の機能強化

Alphablox FastForward は、ビジネス組織全体でカスタム分析ビューをすばやく開発し、配備し、共用するために設計されたサンプル・アプリケーション・フレームワークです。このセルフサービスのレポート作成アプリケーション・フレームワークを利用して、エンド・ユーザーは独自のアプリケーション・ビューを作成することができます。このリリースの FastForward には、次の 2 つの機能拡張がなされました。

- DB2 Alphablox Cubes のサポート
- Relational Reporting Blox のサポート

これらの機能拡張によりアプリケーション開発者は、FastForward アプリケーション・フレームワークを使用して DB2 Alphablox に定義されたすべての選択可能なデータ・ソースを十分に活用することができます。

## 新しい ResultSetBlox

DB2 Alphablox バージョン 8.2 には、カスタム・データ結果セットを、それに関連した DataBlox にプッシュするための新しい ResultSetBlox が用意されています。

ResultSetBlox を DataBlox に付加することにより、アプリケーション開発者は JDBC データ・ソースに関連した通常関数を拡張し、DataBlox で照会をインターセプトし、任意の結果セットを DataBlox に戻すことができます。

## メタデータ用のレベル API

特定のディメンションのレベル情報にアクセスするためのレベル・オブジェクトを使用できるようになりました。あるディメンションから、そのレベルを識別した後で、その固有名や表示名といったレベルに関する情報を取得したり、そのレベルのすべてのメンバーにアクセスしたりできます。



---

## 第 4 章 アップグレードおよびマイグレーション情報

このセクションには、アップグレード後にアプリケーションに影響を与える可能性のある情報が記載されています。アップグレードについての詳細は、DB2 Alphablox CD の README ファイルも参照してください。

以下のリリースについてのマイグレーション情報が記載されています。

- 『DB2 Alphablox バージョン 8.2.1 フィックスパック 1』
- 17 ページの『DB2 Alphablox バージョン 5.6 へのアップグレード』

---

### DB2 Alphablox バージョン 8.2.1 フィックスパック 1

- DB2 Alphablox に対して定義されているアプリケーションは、J2EE アプリケーション名と Web モジュール名を反映するように完全修飾されるようになりました。salesAnalysis というアプリケーションを定義する場合、IBM WebSphere または BEA WebLogic を使用しているなら、アプリケーション名は salesAnalysis\_salesAnalysis になります。その結果、アプリケーションにおいてアプリケーション名をハードコーディングしている場合は、次の例のように、Blox からアプリケーション名を動的に取得するよう変更する必要があります。
- アプリケーション名に J2EE アプリケーション名と Web モジュール名の両方が反映されるようになったため、アップグレード時には、リポジトリに保管されているブックマーク情報は、新しいアプリケーション命名構造に合わせて自動的に更新されます。非常に長い名前が付いている場合、またはネストされたフォルダーに保管されているブックマークの場合、パス名の全体が Windows の 240 字の最大長を超えると、自動マイグレーションが機能しないことがあります。これは、Windows オペレーティング・システムでの制限事項であり、これが生じるのは、IBM WebSphere または BEA WebLogic を使用している場合だけです。そのような問題が発生した場合、DB2 Alphablox のインストール・ディレクトリー内に error.log ファイルが作成されます。インストール完了後、このログ・ファイルが存在するかどうかを調べて確認してください。存在する場合、DB2 Alphablox のサポート部門に連絡してマイグレーションについてお尋ねください。
- FastForward テンプレートから作成したすべての FastForward アプリケーションの場合:
  - アップグレード後に、FastForward クラスを更新し、FastForward アプリケーションを再コンパイルする必要があります。基礎になる Java インターフェースが変更されたので、新しい FastForward クラスを使用して JSP ページを再コンパイルしないなら、その変更内容が正しく反映されません。
  - FastForward アプリケーションのメイン・ディレクトリー内の start.jsp を変更して、以下の行を除去する必要があります。

```
// magic themeName variable set by blox:header
if (_themeName != "<%=ffwdAppContext.getTheme()%>")
    _themeName = "<%=ffwdAppContext.getTheme()%>";
```

コードにこれらの行が存在してもアプリケーションは正しく作動しますが、各要求ごとに JavaScript™ エラーがブラウザーに表示されます。

- このフィックスパックにおいて WebSphere Portal にサポートが追加されたため、要求と応答の処理方法に変更を加える必要があります。一般規則として、これまで `HttpServletRequest` および `HttpServletResponse` を受け入れていたすべてのメソッドは、`BloxRequest` および `BloxResponse` をパラメーターとするようになります。Web アプリケーション・サーバーとポータル・サーバーのどちらから要求が出された場合も、`BloxRequest` および `BloxResponse` が要求および応答を処理します。完全なリストについては、`Blox` サーバー側の API の変更リスト Javadoc を参照してください。
- `Alphablox Tag Library` ではなく API を使用して `Blox` を作成する JSP がある場合、`init()` メソッドのパラメーターは、`HttpServletRequest` と `HttpServletResponse` ではなく、`BloxContext` になりました。次のように、`BloxContext` を使って `Blox` を登録する必要があります。

```
<jsp:useBean id="myPresentBlox"
  class="com.alphablox.blox.PresentBlox">
<!--code omitted -->
<%
  BloxContext context = BloxContextFactory.getBloxContext(request, response);
  myPresentBlox.init(context, "myPresentBlox");
  // code omitted...
%>
```

メソッド・シグニチャーの詳細は、Javadoc を参照してください。

- `Blox Report Tag Library` ではなく `ReportBlox` API を使用して対話式のリレーショナル・レポートを作成する JSP を使用している場合、`ReportBlox` の URL 接頭部を変更する必要があります。従来、対話式レポートを作成するには、Web アプリケーション内で JSP ページが置かれている場所を指すよう URL 接頭部を設定する必要がありました。バージョン 8.2.1 のフィックスパック 1 以降、`Blox` コンテキストに `Blox` が追加されるので、次のように、そのコンテキスト・パスを指すよう URL 接頭部を設定する必要があります。

```
<@ page import="com.alphablox.blox.*,
  com.alphablox.net.URLFactory"%>
<!-- code omitted -->
<%
  ReportBlox rBlox = new ReportBlox();
  rBlox.setId("myReport");
  // code omitted here

  BloxContext context = BloxContextFactory.getBloxContext(request, response);
  rBlox.setUrlPrefix(context.getContextPath() + "/" +
    URLFactory.ALPHABLOX_SERVER_PREFIX);
%>
```

その後、次のように `init()` メソッドを呼び出して、`BloxContext` 内でこの `Blox` を登録する必要があります。

```
<%
  String scriptId = rBlox.getId();
  rBlox.init(context,scriptId);
%>
```

詳細な例については、「`Relational Reporting 開発者用ガイド`」の中の『`上級トピック`』の項を参照してください。

---

## DB2 Alphablox バージョン 5.6 へのアップグレード

DB2 Alphablox バージョン 5.6 において、アダプター「Essbase Enterprise Server Adapter」の名前が変更され、「Hyperion Essbase Deployment Service」になりました。古いアダプター名を使って DB2 Alphablox データ・ソースを作成するスクリプトでは、この変更に従ってアダプター名を変更する必要があります。



## 第 5 章 対処済みの機能拡張要求

このセクションでは、以下のリリースで対処された機能拡張要求をリストします。

- ・ 『バージョン 8.3 で対処された機能拡張要求』
- ・ 『バージョン 8.2 で対処された機能拡張要求』

### バージョン 8.3 で対処された機能拡張要求

次の表は、DB2 Alphablox v8.3 で対処された機能拡張要求をリストしています。

トラッキング番号	説明	機能拡張
19521、19746	ChartBlox dataTextDisplay プロパティをウォーターフォール図で使用可能にした。	ChartBlox dataTextDisplay プロパティは、棒グラフとウォーターフォール図の両方に適用されるようになりました。
21909	getChangedCellValues メソッドおよび getChangedCellList メソッドに書き戻しアプリケーション内の未変更のセルを認識させたい。	GridBrixModel.setWritebackUnchangedCellValues( boolean ) メソッドおよび GridBrixModel.isWritebackUnchangedCellValues() メソッドが追加され、未変更の値が変更されたと思なされるようになりました。
21979	dimension-member 指定に基づいて、PDF 出力を行単位に改ページするように設定したい。	改ページの規則を設定する新規の pageBreak タグ属性が <blox:pdfReport> タグに追加されました。詳細は、「開発者用リファレンス」の『PDF レンダリング・タグ』を参照してください。
22380	マウスが Pareto グラフの累積率の線にあるデータ・ポイントを指すときに、吹き出しテキストにそのデータ・ポイントの累積率を表示させたい。	これは実装されました。吹き出しテキストに累積率が表示され、変更率も括弧内に表示されるようになりました。
22433	OLAP プロバイダー・ストリングを、リポジトリ内の DataSource オブジェクトではなく、DataBlox プロパティとして指定できるようにしたい。これにより、役割ベースのセキュリティなどのカスタムの実装が可能になり、追加のデータ・ソースを作成する必要がなくなります。	provider プロパティ、および関連する setProperty メソッドと getProperty メソッドが、DataBlox に追加されました。これらは、OLE DB および OLAP データ・ソースにのみサポートされます。
22501	メソッドでページ上の EditFormBlox フォーカスを設定したい。	setFocus(boolean) メソッドおよび getFocus() メソッドが EditFormBlox に追加されました。タグ属性 focus も <bloxform:edit> タグに追加されました。
22076	リレーショナル・データについて傾向線(複数のデータ系列がある XY 散布図)をプロットしたい。	この機能はこのリリースで追加されました。

### バージョン 8.2 で対処された機能拡張要求

次の表は、DB2 Alphablox v8.2 で対処された機能拡張要求をリストしています。

トラッキング番号	説明	機能拡張
16993	カスタム DHTML テーマでカーソルを変更できない。	これは、アプリケーション・ページ内の見出しセクションで、<blox:header /> の後に出現するオーバーライドのスタイルシートをセットアップすることにより、可能になりました。例えば、開発者は .csClXt {cursor: hand;} を使用して、すべてのグリッド・セルでのカーソルのデフォルト・アプリケーション動作をオーバーライドすることができます。
18229	<bloxui:toolbarButton> タグを使用して、取り消し、再実行、およびすべてのデータ・ナビゲーション関連のボタンなどの DropDownToolBarButtons を除去できるようにしたい。	<bloxui:toolbarButton> タグを使用して DropDownToolBarButtons を除去できるようになりました。
19112	DHTML クライアントにヒストグラム・チャートがない。	DB2 Alphablox V8.2 では、ヒストグラム・チャートをサポートするようになりました。histogramOptions プロパティが ChartBlox に追加されました。
19411	DHTML クライアントのツリー・メニューのデータ・レイアウト・インターフェースでは、軸ラベルは「行ディメンション」、「列ディメンション」、「ページ・ディメンション」、および「他のディメンション」だが、Java クライアントでは単に「行」、「列」、「ページ」、および「その他」となっている。	ツリー・メニューのデータ・レイアウト・インターフェースにおける軸ラベルに機能拡張がなされ、他のインターフェースと同じになりました。
19472	ツリー・メニューのデータ・レイアウト・パネルで、ディメンションが移動中であることを示す標識も、移動先も、明確に示されない。	移動中のディメンションの名前を表示するように機能拡張がなされ、ディメンションの移動先は赤の標識バーで示されるようになりました。
19570	a) 円グラフの感触値をフォーマットして小数部を表示する機能と、 b) 感触ラベルにメンバー名を追加する機能が望まれる。	新規の setSliceLabelOptions() API が com.alphablox.blox.uimodel.core.chart.PieChart に追加されました。
19576	バブル・チャートで対数スケールのサポートが必要。	ChartBlox は、logScaleBubbles プロパティを持つようになりました。
19816	メニュー項目で、checked および checkable プロパティがほしい。	2 つのプロパティ、checkable と checked が、menuItem および toolbarButton タグ・ハンドラーおよびタグ・ライブラリーに追加されました。
19953	ツールバーの「取り消し」/「再実行」ボタンはイメージではないので、簡単にカスタマイズしたりサイズ変更したりできない。	これら 2 つのボタンはイメージになりました。開発者はイメージを置き換えたり、イメージのサイズを変更することができます。
19956	Calculator UI では新しい計算は常に「New Calculation 1」と定義されるが、これは紛らわしい。	自動的に作成される名前は、今後はどの既存の計算のものとも必ず異なり、名前の中の番号が自動的に増分されます。
20467	セル・アラート、セル・フォーマット、セル・エディター、セル・リンク、およびデータ計算の範囲指定引数に、子孫が組み入れられていない。	Descendents() 検索関数が、GridBlox の cellAlert、cellFormat、cellEditor、および DataBlox の calculatedMembers の範囲指定引数に追加されました。

トラッキング番号	説明	機能拡張
20571	「すべて展開」操作など、Blox 上でサーバー集中プロセスが実行される場合に、常に砂時計を表示する。	DB2 Alphablox V8.2 では、サーバー集中操作の間、砂時計を表示するようになりました。
20805	「PDF にエクスポート」の完了時に通知するイベントがほしい。	PdfListener イベント・リスナーおよび PdfEvent が、com.alphablox.blox.event パッケージに追加されました。



---

## 第 6 章 対処済みの問題

DB2 Alphablox V8.2 以降に修正された報告済みの問題を、この後のセクションに一覧で示します。修正のために動作方法が新しくなった場合や、さらに詳細な追加情報が入手可能な場合、問題点の末尾に注が付記されています。

---

### バージョン 8.3 で対処された問題

このセクションは、このリリースで対処された問題をリストします。

重要なインストール情報および追加のバグ修正や既知の問題については、DB2 Alphablox CD の README ファイルも参照してください。

#### アセンブリ・ワークベンチおよび例関連の修正

- 21701 -- Calculation Editor が特殊文字を含むメンバーを引用符で囲まない。これは修正されました。
- 21844 -- スライサーが空の場合、クエリー・ビルダー内のリレーショナル・キューブで generateQuery メソッドが無効な照会を生成する。これは修正されました。
- 21834、21862 -- Calculation Editor が、引用符で囲まれたメンバーを関数 sum() で処理できない。これは修正されました。
- 22013 -- メンバー名にコロンまたは中括弧が含まれる場合、Calculation Editor の「前に配置」オプションが機能しない。これは修正されました。

#### ブックマーク関連の修正

- 22080 -- ブランクのタイトルで ChartBlox でブックマークを保管すると、InvalidBloxPropertyValueException が生成される。これは修正されました。
- 22318 -- アップグレード中にブックマークを Alphablox v5.1 から復元できない。これは修正されました。これは、ブックマークに保管されている円記号 (「\」) が原因で発生していました。この円記号はスラッシュ (「/」) でなければなりませんでした。アップグレード中に、円記号について追加の検査が行われるようになりました。
- 22413 -- DB2 Alphablox v8.2.1. へのアップグレード中に、データがソートされ、直列化された照会を含むブックマークを復元すると、java.io.InvalidClassException が生成されます。これは v8.3 で修正されました。
- 22460 -- 行設定の最大値を超えるデータを戻すブックマークをロードする場合、ブックマークがテキスト形式の照会 (<blox:data textualQueryEnabled="true" />) で保管されていると、通常表示される警告がユーザーに表示されず、ブックマークが正しくロードされない。これは修正されました。
- 22574 -- ODBO データ・ソース上のブックマークがロードされる際に、照会が 2 回実行された。これは修正されました。この修正の結果、DB2 Alphablox は重複データを自動的に抑止しなくなりました。

- 22596 -- 無効のブックマークが Microsoft® Analysis Services データ・ソースにロードされると、DB2 Alphablox は内部接続プール内の接続を無効にするため、重大なエラーでないにもかかわらず、パフォーマンスの問題が発生する。これは修正されました。不明のメンバーやディメンションなど、重大なエラーでない場合は、DB2 Alphablox はデータ接続を無効にしなくなりました。
- 22580 -- ブックマークがロードされると、正しくない不完全なデバッグ・メッセージが記録された。切断の際に消去されたクライアントのキャッシュについての正しくないメッセージが表示され、テキスト形式の照会または直列化された照会が復元されたかどうかを確認するのは困難です。正しくないメッセージは修正され、ブックマークがロードされたときに関係する照会の種類を示す新規のメッセージが追加されました。

## チャート関連の修正

- 18749 -- DHTML クライアント上で線グラフを表示するときに、X 軸に沿った右端のラベルがトリミングされることがある。これは対処されました。チャート軸オブジェクトの `setEndMargin(int)` メソッドを使用して、右端を設定できるようになりました。このメソッドは、`com.alphablox.blox.uimodel.core.chart.common` パッケージにあります。
- 19505 -- ウォーターフォール図の `autoAxesPlacement` プロパティを、「チャートのタイプと構成」ダイアログ内の「チャートの軸を自動的に割り当てる」オプションをオフにして JSP で `false` に設定すると、軸が交換される。これは修正されました。
- 20791 -- チャートの項目の最大数が 600 に設定されているチャート上で軸を交換すると、チャートの項目が多すぎるというメッセージが表示される。これは修正されました。
- 21982 -- データ系列の項目の最大数が 50 にハードコーディングされている。最大数を 256 に増加しました。現在、この値のハードコーディングを回避する方法はありません。
- 22033 -- `SingleValueDataSeries.add()` メソッドを使用して、ウォーターフォール図にツール・ヒントを追加できない。これは修正されました。
- 22015 -- 傾向線チャート内のデータ・ポイントが 85 を超えている場合、`java.lang.NullPointerException` エラーが出される。これは修正されました。
- 22051 -- ウォーターフォール図の Y 軸の最小値がチャートの初期値 (通常は 0) より大きく設定されている場合、バー上を移動するとバーのアウトラインが実際のバーよりも大きく表示される。これは修正されました。
- 22062、22806 -- 「チャートのタイプと構成」ダイアログには大きなデータ・セットがあるため、ロードするのに時間がかかる。
- 22254 -- `ChartBlox` メソッド `setMarkerShape` が最初に実行したときしか処理されない。これ以降に `setMarkerShape` を呼び出しても、チャートのマーカーには影響がありません。これは修正されました。
- 22322 -- 傾向線チャートに 250 より多くのメンバーが含まれる場合、`NullPointerException` がスローされる。これは修正されました。
- 22367 -- カスタム・ラベルの方向が、「チャート・オプション」ダイアログで完全には機能しない。「標準」および 90 度の方向の場合にのみ機能します。これは修正されました。

- 22388 -- データ・セルに値が存在しない場合、傾向線は右クリックに反応せず、コンソール内で例外をスローする。これは修正されました。
- 22396 -- 散布図内のメモリー・リーク。これは修正されました。
- 22449 -- ブックマークのロード後にディメンションを別の軸に移動すると、ページ上のチャートが最新表示されない。これは修正されました。
- 22458 -- 散布図またはバブル・チャート内のデータ・ポイント上の吹き出しテキストで、データのフォーマット設定が正しく表示されない。これは修正されました。
- 22480 -- 千単位 (thousands) および百万単位 (millions) のフォーマット・マスクが、円グラフ、バブル・チャート、および散布図上のツール・ヒントに表示される値に適用されない。これは修正されました。
- 22733 -- チャートを作成するメンバーにコンマやセミコロンなどの特殊文字が含まれる場合、「**選択されたデータのみをチャート作成 (Chart Selected Data Only)**」オプションが機能しない。これは修正されました。
- 22815 -- ダイアル・チャートが英語版以外のシステムで完全には表示されない。これは修正されました。

## データ関連の修正

- 19478 -- DB2 Alphablox がデータ・ソースを切断できない場合にハングする。これは修正されました。
- 21708 -- DataBlox getHiddenMembers メソッドおよび setHiddenMembers メソッドが特殊文字を処理しない。これは修正されました。
- 21724 -- いずれかのデータ・ソース名がリポジトリのデータ・ソース・プロパティ・ファイルに存在しない場合、データ・ソースを DB2 Alphablox の管理ページにリストできない。これは修正されました。DB2 Alphablox の管理ページからデータ・ソースをヌル名で保管できなくなりました。プロパティ・ファイルに名前が存在しない場合、警告メッセージがログ・ファイルに追加され、別のデータ・ソースがロードされます。
- 21746 -- Microsoft Analysis Services データ・ソースを算出方法で照会すると、アプリケーション・サーバーに C ヒープ・メモリーがなくなる可能性がある。これは修正されました。この問題が発生していると考えられる場合は、DB2 Alphablox テクニカル・サポートに連絡して、この問題を修正するために構成に適用する必要がある Microsoft Quick Fix Engineering (QFE) にアクセスしてください。
- 21747 -- Microsoft Analysis Services データ・ソースに接続すると、Windows オペレーティング・システムでハンドルが使用され、ハンドルが解放されない。これは修正されました。
- 21808 -- Microsoft Analysis Services データ・ソースに関するメモリー・リークおよびパフォーマンスの問題。これは修正されました。DB2 Alphablox サポート Web サイトにある Microsoft Analysis Services データ・ソースのパフォーマンス向上についての技術情報 (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=2026&context=SSCPX3&q1=msas%20connection%20pool=swg21210606>) を参照してください。
- 21837 -- 中括弧 (「{」および「}」) を含むメンバー名での計算が正常に行われない。これは修正されました。

- 21869 -- MDBResultSet にページ軸と列軸のデータのみが含まれる場合、MDBResultSet.GetAxis( Axis.PAGE\_AXIS) が NullPointerException を戻す。これは修正されました。
- 21913 -- DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase データ・ソースを使用して、「すべて展開」 オプションをグリッド・ユーザー・インターフェースで選択すると、WebSphere が異常終了する。これは修正されました。
- 22061 -- メンバー・フィルターを Microsoft Analysis Services 仮想キューブで使用すると、「ODBO ブリッジで不明な例外が発生しました。(An unknown exception occurred in the ODBO bridge.)」というメッセージの例外が発生する。これは修正されました。
- 22146 -- 照会が戻す結果セットに行がないか、または行のタプル数のサイズが 0 の場合、NullPointerException が出される。これは修正されました。DHTML クライアントは、デフォルトのメッセージ「使用可能なデータはありません」を戻すようになりました。
- 22179 -- 多数の子 (32000 個より多い数の子など) を持つディメンションをロードすると、com.alphablox.util.NotFoundException が出される。これは修正されました。
- 22205 -- DataBlox suppressMissingRows プロパティーが true に設定されている場合、データが存在する行が正しく抑止されない。これは修正されました。
- 22295 -- ODBO データ・ソース上でドリルスルー操作が完了した後に、メモリーが解放されず、ガーベッジ・コレクションを促進するために、DrillThroughResultSet オブジェクトへの参照が明示的にヌルに設定される。これは修正されました。
- 22302 -- ページ軸でディメンション内のメンバーを選択した後に、データを抑止する際に発生する問題が原因で、java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException が出される。これは修正されました。
- 22311 -- ページ軸内の最後のディメンションを別の軸に移動すると、ODBO データ・ソースについての NullPointerException が発生する。これは修正されました。
- 22514 -- DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase 照会内の報告書作成プログラムのコマンド DIMBOTTOM が原因で、すべての子メンバーがリーフであるディメンションで照会を実行すると、DB2 Alphablox がハングする。これは修正されました。
- 22610 -- スライサー軸上のメンバーがスライサー操作ごとに複数回解決される。これは修正されました。
- 22616 -- Microsoft Analysis Services データ・ソース上でのメタデータに関連する操作に、子のカウントが含まれる場合、時間がかかる。これは修正されました。
- 22619 -- 、 DataBlox mergedHeaders プロパティーを使用してメンバー名を空ストリングまたはスペースに置き換える場合に、<bloxui:gridSpacer> で指定された scope が認識されない。これは修正されました。
- 22620 -- メンバーにコンマやセミコロンなどの特殊文字が含まれる場合、DataBlox hiddenMembers プロパティーが機能しない。これは修正されました。特殊文字は、単一引用符または二重引用符で囲む必要があります。引用符付きストリング内では、円記号 ("\"") を使用して、引用符をエスケープしてください。

- 22696 -- 算出メンバーに関連するブックマークをロードするのに時間がかかる。これは、ブックマークの `calculatedMembers` 式の構文が正しくないためです。ブックマークには、`{"::MissingIsZero:"}` ではなく、正しくない値 `{"MissingIsZero"}` が含まれています。このため、計算エンジンが `"MissingIsZero"` というメンバーを検索します。不要な検索を回避するために、このキーワードを検出するための追加の検索機能が実装されました。
- 22751 -- 集約ストレージ一括表示 (ASO) である DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase データベースで照会すると、多量のメモリーを使用する。これは修正されました。この問題が発生していると考えられる場合は、DB2 Alphablox テクニカル・サポートに連絡して、この問題を修正するために構成に適用する必要がある Hyperion Essbase パッチにアクセスしてください。

## DHTML クライアントおよび UI コンポーネント関連の修正

- 12953 -- `<blox:header>` タグが生成するコンテンツによって参照されるスタイル・シートがインラインでないため、XLS およびプリンターのレンダリング・モードが正しく機能しない。スタイル・シートはインラインになったため、これは修正されました。
- 21810 -- データ・セルを他のアプリケーションにコピーするために「編集」 > 「全選択」オプションを選択してから、「編集」 > 「コピー」を選択すると、すべてのデータがコピーされるとは限らない。これは修正されました。
- 22048 -- 多数のデータ・セル (200000 個より多い) を指定して `grid.setSelectedCells()` メソッドを呼び出すと、ブラウザがハングする。これは修正されました。
- 22130 -- 開発者は、ユーザー・インターフェース Blox のボーダーを単純にオフにすることはできない。ボーダーのスタイル、サイズ、および色は、Blox UI モデルでは相互に依存しあっているため、既存設定をオーバーライドするのが困難であるからです。

注: 今後、各種のボーダー設定は別々になります。次のようにしてボーダーをオフにすることができます。

```
<%
myGrid.getBloxModel().getBody().get(0).setStyle("border-style:none;");
%>
```

`border-style` を設定しても、ボーダーのスタイルが変わるだけで、Blox の幅や色は影響を受けません。

- 22471 -- ネストされているすべてのグループにドリルダウンした後にドリルアップすると、最初にドリルダウンした前の状態に戻らない。これは修正されました。
- 22795 -- 2 月の日付が選択されている場合に、DateChooser が 3 月の日付を戻す。これは修正されました。
- 22308 -- グリッド内でスクロールしたために DHTML クライアントが最新表示された後で、列ディメンションを別のディメンションの下にドラッグ・アンド・ドロップすると、イベント・ヘッダーのフォーマットが正しくない、または欠落情報があることを知らせるエラーが表示されます。これは修正されました。

## 資料関連の修正

- 21687 -- カスタム・ダイアログの資料に、カスタム・リソース・ファイルは `abxclasses` ディレクトリーに配置可能であり、自動的に検出されるという正しくない情報が記載されている。これは修正されました。カスタム・リソース・ファイルはさまざまな方法でロードできますが、通常はクラス・パスを設定してロードします。

## 格子関連の修正

- 17257 -- グリッドを Excel にレンダリングする場合に URL が 210 文字より長いと、CSS ファイルがないことを知らせるエラーを受け取る。これは修正されました。
- 21937 -- GridBlox `cellAlert` プロパティーに指定されたイメージが、プリンターのレンダリング・モードに表示されない。これは修正されました。
- 22604 -- メンバーにコンマまたは中括弧が含まれる場合、トラフィック・ライト (GridBlox `cellAlert` プロパティー) が機能しない。これは、`cellFormat`、`cellLink`、`cellEditor` などの範囲の指定に関する他のプロパティーでも発生します。これは修正されました。中括弧 (`{` あるいは `}`)、単一引用符 (`'`)、二重引用符 (`"`)、またはコンマ (`,`) は、単一引用符あるいは二重引用符で囲む必要があります。引用符付きストリング内では、円記号 (`\`) を使用して、引用符をエスケープしてください。

## FormBlox 関連の修正

- 21690 -- 最初の選択が単一選択 FormBlox で指定されていない場合、`setChangedProperty` メソッドが `java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException` を生成する。これは修正されました。
- 21904 -- `<bloxform:memberSelect>` タグを使って作成された選択リスト・コンポーネントを使用不可にしても、選択リストが使用中に設定されるだけで使用不可にならない。これは修正されました。Blox UI モデルの `setDisabled(true)` メソッドを使って選択リストを使用不可にすると、使用中モードにはならず、グレー表示されます。
- 22373-- Blox Form Tag ライブラリーで FormBlox プロパティー `multipleSelect` が `multiple` タグ属性として定義されており一貫性がない。 `multipleSelect` タグ属性が Blox Form Tag ライブラリーに追加されました。以前の `multiple` タグ属性は使用すべきではありません。

## リレーショナル・キューブ関連の修正

- 21758 -- キューブが使用可能になっている場合、DB2 Alphablox の管理ページを使用してディメンションをキューブに追加すると、ディメンションの SQL 照会が定義されていないことを知らせるエラーが生成される。これは修正されました。
- 21844 -- クエリー・ビルダー内のリレーショナル・キューブで `generateQuery` メソッドが無効な照会を生成する。これは修正されました。

## Relational Reporting 関連の修正

- 19281 -- データ・テキスト値が HREF を含む場合に PdfBlox で `TextBlox.setDataText()` メソッドを使用すると、PDF レンダリングが正しく表示されない。これは修正されました。
- 22379 -- 動的照会で ReportBlox を約 10 回最新表示すると、ReportBlox がロックされ、スタック・オーバーフローのエラーが作成される。これは修正されました。
- 22479 -- 時間データ・タイプの DB2 列を照会すると、常に値 1/1/70 が戻される。これは修正されました。

## PDF へのレンダリングおよび印刷関連の修正

- 21664 -- ページ・フィルターのラベルの位置がなし (`<blox:page labelPlacement="none" />`) に設定されている場合、PDF レンダリングが `java.lang.IndexOutOfBoundsException` エラーを生成する。これは修正されました。
- 22489 -- 最初の PDF ウィンドウを開いたままにして 2 番目の PDF 出力を要求すると、新しい PDF が表示された後にウィンドウがフォーカスを失う。これにより、ユーザーが混乱する可能性があります。これは修正されました。
- 22585 -- GridBlox が PDF に送信されたときに、高さが 0 ピクセルと 6 ピクセルの間に設定されている場合は、`<bloxui:gridSpacer>` に設定されている高さが常に同じ高さで表示される。これは修正されました。
- 22793 -- PresentBlox 内のチャートが大きすぎてページ上でレンダリングできない場合、PresentBlox を PDF にレンダリングすると出力が生成されない。これは対処されました。PDF 出力が生成されるようになりました。レポート内でチャートが存在するはずの場所に、メッセージ「チャートのイメージがこのページには大きすぎます (The chart image is too large for the page)」が表示されます。

## プラットフォーム関連の修正

- 22031 -- 変更された `jdbcsetup.bat` ファイルまたは `jdbcsetup.sh` ファイル内のカスタム設定が、自動アップグレードのインストール中に上書きされる。このリリースでは、ユーザーがこのファイルを修正した場合は、このファイルのバックアップ・コピーを作成し、アップグレードまたは再インストール後にインストールされたファイルを置き換える必要があることをユーザーに通知する警告メッセージがスクリプトに追加されました。
- 21926 -- ユーザーが Internet Explorer で Sun Java プラグイン v1.4.2\_05 を使用して、インストールされている SmartCache を検証すると、ユーザー・プロファイル・ページが `java.io.FileNotFoundException` を生成する。これは修正されました。
- 22220 -- DB2 Alphablox がサービスとして稼働しているときに、Microsoft Analysis Services データ・ソースを DB2 Alphablox の管理ページから複数回テストすると、サーバーがハングする。これは修正されました。
- 22256 -- ポート番号を 0 に設定して DB2 Alphablox Telnet ポートを使用不可能にできない。これは修正されました。

- 22451 -- AdminBlox で作成された DataSource オブジェクトが、サーバーを再起動しないで使用されると、NullPointerException をスローする。これは修正されました。
- 22800 -- SmartCache を使用する場合、DataBlox 切断呼び出しを行うと NullPointerException が発生し、ブラウザがハングする。これは修正されました。

---

## バージョン 8.2.1 で対処された問題

- 19604 -- パブリック・ユーザー・グループからユーザーを除去しても、そのユーザーはそのグループのメンバーとして再表示される。注: すべてのユーザーは自動的にパブリック・グループのメンバーになるので、どのメンバーもそのグループから除去してはなりません。これまで、管理ページでは、このグループからのユーザーの除去が誤って許可されていました。今後、それは許可されません。
- 19522 -- PresentBlox 内の表示において、コンテナ内の複数の ChartBlox のパーセンテージ・サイジングが正しく機能しない。これは修正されました。
- 19494 -- DB2 Alphablox Repository およびリポジトリ変換ユーティリティにはスキーマという概念がないので、リポジトリ表の所有者ユーザーではないユーザーがそのリポジトリ表を使用することが許可されない。これは修正されました。

注: DB2 Alphablox のユーザーが、(DB2 Alphablox のインストール時に指定される) 別のユーザーによって作成された表を使用できるようにするには、リポジトリ変換ユーティリティを実行し、スキーマ値を入力するよう求めるプロンプトに対しては表の所有者を指定します。

---

## バージョン 8.2 で対処された問題

それらの問題は以下のカテゴリ別に編成されています。

- 『チャート関連の修正』
- 31 ページの『データ関連の修正』
- 32 ページの『格子関連の修正』
- 33 ページの『一般的な DHTML クライアントおよび UI コンポーネント関連の修正』
- 33 ページの『FastForward 関連の修正』
- 34 ページの『Relational Reporting 関連の修正』
- 34 ページの『PDF へのレンダリングおよび印刷関連の修正』
- 34 ページの『プラットフォーム関連の修正』
- 34 ページの『資料関連の修正』

### チャート関連の修正

- 19452 -- Java クライアントでチャート・タイプを円グラフに変更すると、次回「チャート・タイプの選択」を右マウス・ボタンでクリックしたときにクライアントがロックしてしまう。これは修正されました。

- 19527 -- PDF へのチャートのレンダリングを実行すると、チャート内にフィルター・ディメンションがない場合には 2 ページが生成されるが、最初のページはほとんどブランクである。これは修正されました。
- 19675 -- DHTML クライアント内の円グラフのツールチップが、y1FormatMask の設定を反映しない。これは修正されました。
- 19853、20102 -- ChartBlox の y1formatMask を数十億に設定した場合、間違ったマウスオーバー・ツールチップが表示される。これは修正されました。
- 20021 -- DHTML チャートで chartType が「水平バー、横並び」に設定されている場合、チャートの X 軸と Y 軸が逆になる。これは修正されました。
- 20060 -- lineSeries と barChart を持つ comboChart を使用する場合、バーの中のライン・マーカ点のポップアップ・ラベル (データ値) はチャートに表示されない。バーの外側のライン・マーカ点では、ポップアップ・ラベルが正しく表示される。これは修正されました。
- 20570 -- メンバーまたはディメンション名にコロンがあると、対数の傾向線が表示されない。これは修正されました。

## データ関連の修正

- 18706 -- Microsoft Analysis Services データ・ソースがタイムアウト・エラーになる。これは修正されました。注: この問題と対処法については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?kbid=823357>を参照してください。
- 19607 -- ドリルアップすると、ドリルアップ・メンバーのいところがグリッドから除去される。これは修正されました。
- 19612 -- autoDisconnect プロパティが true に設定されている場合でも、DataBlox は、リレーショナル・データ・ソースに接続した後、親タグ (Grid、Chart、または Present) が自身をレンダリングするまで切断されない。これは修正されました。

注: autoDisconnect を true に設定し、RDB データ・ソースを使用している場合は、DataBlox タグは自動的に切断するようになりました。今後は、親タグ (Grid、Chart、または Present) が自身をレンダリングするまで待ってから DataBlox を切断する必要はありません。

- 19639 -- Oracle ストアード・プロシージャ内でカーソルが最後に宣言されている場合、そのストアード・プロシージャの結果セットを DataBlox にロードできない。これは修正されました。

注: Oracle データ・ソースの場合、useResultSet() 内のパラメーターは、カーソルの設定先に一致しなければなりません。

- 19802 -- 散布図で「除去」または「選択的保持」データ操作を実行すると、常に 2 番目のデータ値が除去される。これは修正されました。
- 19936 -- ディメンション・エクスプローラー / メンバー・フィルターで、MSAS 算出メンバーを見つけられない。これは修正されました。
- 19939 -- 関与するメンバーが 1 つ以上の非表示メンバーからの算出メンバーである場合、メンバー・フィルターで「メンバー [memberName] が見つかりません」が表示される。これは修正されました。

- 20801 -- 複数の階層からなるディメンション内の階層名がディメンションと同じ名前 (例えば Product.Product) である場合、階層名が正しく表示されない。これは修正されました。
- 20804 -- com.alphablox.blox.data.mdb.Cell の getDoubleValue() メソッドは、欠落値の場合は NaN を戻さなければならない。これは修正されました。
- 20809 -- Microsoft Analysis Services ブックマークを復元するとき、データ・レイアウト・パネルに新規ディメンションが表示されない。これは修正されました。
- 20820 -- 算出メンバーが関係する照会からの変更の後、書き戻しで間違ったセルが更新される。これは修正されました。

注: 今後、計算マッピングはクリーンアップされるので、算出メンバーが関係する以前の照会のマッピングは保存されません。

- 20836 -- DB2 DB2 タイプ 4 ドライバー用の JDBC drivers.xml ファイル・カタログ項目にある display エLEMENTの値は、Database Name に変更する必要がある。これは修正されました。
- 20865 -- 数字のメンバー名の付いた算出メンバーが関与するブックマークをロードすると、構文エラーになる。これは修正されました。

## 格子関連の修正

- 19988 -- リレーショナル・データ照会から戻された結果セットが列名だけから成り、行が入っていない場合、格子は noDataMessage 内の値セットを表示しない。これは修正されました。

注: このような場合は、noDataMessage 内の値セットが表示されるように動作が変更されました。

- 20040 -- 格子に defaultCellFormat が設定されている場合、行軸上のディメンションを列軸へ移動すると、エラーが発生する。これは修正されました。
- 20153 -- 複数のデータ・セルを選択して右マウス・ボタンでクリックし、「選択的表示」や「選択的非表示」などのデータ・ナビゲーション・オプションを選択すると、「サーバーの問題のため、要求を処理できませんでした」または「Operation Failed 1」といったダイアログ・ボックスが表示されることがある。これは修正されました。
- 20192 -- サーバー側 API を介して GridBlox の columnHeaderWrapped プロパティを設定しても、格子に対して効果がない。これは修正されました。
- 20923 -- 1 つの格子内の 2 つの格子は有効ではなくなった。これは修正されました。

注: 以前は、GridBlox 内に 2 つの格子がある場合に、一方の格子の高さを 100% に、他方の高さを数ピクセルに設定すると、レイアウト・コードは両方の格子の表示を試みていました。パフォーマンスの向上のため、新たに百分率サイズのコンポーネント・レイアウト・コードが拡張されました。しかし、このような場合は、GridBlox 内で 100% の高さを一方の格子が占めてしまうと両方を表示できなくなるため、新しいレイアウト・コードは最初の 100% サイズの格子をドロップします。

## 一般的な DHTML クライアントおよび UI コンポーネント関連の修正

- 16861 -- DHTML メンバー・フィルター内では、兄弟どうしでないかぎり、複数のメンバーを選択することはできない。これは修正されました。
- 19672 -- ブランクのトラフィック・ライト・リストをダブルクリックすると、`IndexOutOfBoundsException` が生成される。これは修正されました。
- 19737 -- `Tree SelectionChangedEvent` から戻される UID は、`TreeNode` 内の `Static` の UID ではなく、ノード UID でなければならない。これは修正されました。
- 19937 -- `MemberSelectFormBlox` でカスタム Bean プロパティを変更しようとすると、`NullPointerException` が出される。これは修正されました。
- 20006 -- `PresentBlox` で水平の仕切りを使用すると、JavaScript エラーが出される。これは修正されました。
- 20035 -- 格子とメニュー・バーの間にスペースを追加してカスタマイズされた `Blox` では、`Blox` がポップアウトしてもメニュー・バーが作動しない。これは修正されました。
- 20178 -- DHTML クライアント内の大きなブックマークのレンダリングには、長い時間がかかる (15 から 20 秒)。これは修正されました。
- 20180 -- DHTML クライアント内の格子では、最後の行ヘッダーと列ヘッダー/セル・データとの間にギャップができる。これは修正されました。
- 20496 -- 左マウス・ボタンを使って DHTML チャートでバーを選択し、項目からマウスを離してから右マウス・ボタンでクリックし、次にドリルアップ (非選択メンバー上で) を実行する。そうすると、「サーバーの問題のため、要求を処理できませんでした」というエラーが生成される。これは修正されました。
- 20670 -- 「前へ」オプションで、チャートの傾向線に対して非常に大きな値 (>10000) を入力すると、ブラウザがハングまたは異常終了する。このオプションはスピナー制御を使用するように変更されており、スピナーの範囲は 0 から 500 までです。
- 20824 -- `gridSpacers` に設定した幅は、PDF 出力で順守されない。これは修正されました。
- 20848 -- `<bloxui:toolbar>` タグが原因で、`<bloxui:menu>` を使用したカスタマイズが機能しない。これは修正されました。
- 20893 -- 「前に配置」フィールド内の以前のメンバーを参照する `Calculation Editor` で作成された算出メンバーを編集すると、`NullPointerException` が出される。これは修正されました。
- 20902 -- `MemberFilterBlox setSelectedDimension()` メソッドには何の効果もない。これは修正されました。
- 20989 -- 水平 `gridSpacers` で設定した高さは、PDF 出力で順守されない。これは修正されました。

## FastForward 関連の修正

- 19622 -- 非常に大きなテンプレートを `FastForward` で使用すると、サーバー異常終了し、エラーが発生する。これは修正されました。

## Relational Reporting 関連の修正

- 20868 -- DataSourceConnectionBlox は、Adapter.disconnect() の代わりに connection.disconnect() を呼び出すので、DataManager は、その接続をオープンしているものとして扱う。これは修正されました。

## PDF へのレンダリングおよび印刷関連の修正

- 19527 -- PDF へのチャートのレンダリングを実行すると、チャート内にフィルター・ディメンションがない場合には 2 ページが生成されるが、最初のページはほとんどブランクである。これは修正されました。
- 19764 -- PresentBlox をプリンターにレンダリングすると、Blox の上下に大きなスペースが生じる。これは修正されました。

## プラットフォーム関連の修正

- 19256 -- PDFServer のデフォルト・ポート 8888 は、やはり 8888 であるiPlanet (SunOne) 管理ポートと競合する。これは修正されました。

注: ポートは 8178 になりました。

- 20870 -- インストール中にスペースの入った JDBC ドライバー・ディレクトリー名を指し示す DB2 Alphablox をサービスとして実行しようとしても作動しない。これは修正されました。

## 資料関連の修正

- 19818 -- setUrgent() などのクライアント側のイベント・メソッドを文書化する必要がある。これは修正されました。注: クライアント側のイベントとイベント・メソッドは、開発者用リファレンスのクライアント側 API の章に記載されました
- 20797 -- 管理者用ガイドの JDBC ドライバーを使った作業のセクションで、Windows 上で稼働する Tomcat の下のクラスパス設定値の変更に関するステップの情報が間違っている。これは修正されました。

## 第 7 章 既知の問題と対処法

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.3 とそれに組み入れられたアプリケーションの操作上の問題について説明します。可能な限り、予備手段としての対処方法の指示が記載されています。特定の問題の詳細については DB2 Alphablox テクニカル・サポートに問い合わせる際には、DB2 Alphablox トラッキング番号を使用してください。DB2 Alphablox 8.3 アプリケーションの実行中に、特定の Web サーバーまたは Web ブラウザーに関連した問題が発生することがあります。それらの問題のいくつかは IBM で認識されているので、それに対する対処法を提供できる場合があります。アプリケーションに影響を与える Hyperion Essbase および Microsoft Analysis Services の既知の問題もあります。詳細は、『既知のデータ・ソースの問題と対処法』を参照してください。

### WebLogic 上の既知のインストール問題

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.3 リリースでの、BEA WebLogic へのインストールに関する既知の問題と対処法の一覧を示します。

トラッキング番号	説明	対処法
17932	Windows プラットフォームで、DB2 Alphablox が WebLogic 8 の背後にインストールされている場合に CLASSPATH が長いと、WebLogic の正常な開始が妨げられます。	<p>これは既知の BEA 問題です。この問題が起きないようにするには、もっと短い名前のディレクトリに DB2 Alphablox をインストールしてください。以下に示すのは、BEA の Web サイトからの抜粋の翻訳です。</p> <p><b>説明:</b> 以下のいずれかの場合、ドメインまたはサーバーに組み込まれた製品によっては、入力行が長すぎるという旨のエラーが startWebLogic.cmd スクリプトから発生することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 製品のインストール・パスが長すぎる場合</li><li>2. CLASSPATH に追加した項目が多すぎる場合</li></ol> <p>これは Windows コマンド・プロセッサにおける制限事項です。プラットフォーム・ドメイン用の変更されていないスクリプト (WebLogic Server、WebLogic Portal、および WebLogic Integration の CLASSPATH 項目など) の場合、18 文字以下の名前のインストール・ディレクトリであれば支障ありません。</p> <p><b>対処法:</b> もっと短いディレクトリ名をインストール先とします。JAR を結合するか、または単一の JAR ファイル内で Manifest Class-Path 項目を使用して、追加のサーバー CLASSPATH 項目の数を減らしてください。</p>

---

## Tomcat 上の既知のインストール問題

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.3 リリースにおける Tomcat へのインストールに関する既知の問題と対処法の一覧を示します。

トラッキング番号	説明	対処法
22863	Tomcat 3.2.4. を使用している場合、IBM JDK v1.4.2 の最新バージョン (Windows/IA32 1.4.2 Service Release 2、cn142-20050609) が機能しない。	代わりに、1.4.2 GA リリース・バージョン (Windows/IA32、cn1420-20040626) を使用してください。
21217	スペースが使用されているディレクトリーに Tomcat がインストールされている場合、DB2 Alphablox サービスが稼働しません。	スペースが使用されたディレクトリーに Tomcat をインストールすると、Tomcat NT サービスが正しく稼働しません。 <b>対処法:</b> Tomcat インストール・ディレクトリー名を変更してください。

---

## インストールに関する一般的な問題

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.3 リリースでの一般的な注意事項とインストール上の問題の一覧を示します。

トラッキング番号	説明	対処法
19134	Alphablox 4 または 5 から DB2 Alphablox にアップグレードして WebSphere または WebLogic Application Server を使用しているときに、現在のリポジトリーが Application Server 接続プーリング・データ・ソースである場合、アップグレード後に DB2 Alphablox はデータ・ソース・タイプを通常 (非接続プール) データ・ソースにリセットします。	リポジトリー変換ユーティリティーを実行して、Web アプリケーション・サーバー接続プーリング・データ・ソースの使用を再び活動化してください。

---

## 既知のプラットフォームの問題

このセクションでは、一般的なプラットフォームの問題を説明し、DB2 Alphablox 8.3 についての既知の問題と対処法を示した表を記載しています。

## ユーザー・インターフェース

トラッキング番号	説明	対処法
18795	グリッド上に複数の算出メンバーがある場合、メンバー・フィルターを立ち上げて、メンバーを再配列することができる。算出メンバーを順番に配置する場合に、calculatedMembers プロパティに指定したものと異なる順序で配置すると、メンバーは再配列されず、calculatedMembers プロパティに指定した順序が保持される。	希望する順序を反映するように、calculatedMembers プロパティを変更してください。
12939	メンバー・フィルターを使用して複数のメンバーを Page ディメンションに追加してから、Page フィルターからメンバーを選択すると、選択したものだけでなく、すべてのメンバーが表示される。	なし。

## チャート作成

トラッキング番号	説明	対処法
22452	SAP BW および Microsoft Analysis Services ランタイム算出メンバーが、3D 棒グラフに表示されない。	3D チャートには、照会内の最も低い世代のメンバーのみが表示されます。OLE DB for OLAP ランタイム算出メンバーの世代のレベルは 1 (最も高いレベル) であるため、3D チャートには表示されません。対処法はありません。

## CommentsBlox

トラッキング番号	説明	対処法
19355	10 を超えるディメンションのある Comments Collection から、Comments を伴うセルの入った GridBlox を表示すると、DB2 UDB データ・ソースで障害が起きる。	10 以内のディメンションにインデックスを抑えるため、どのインデックスをドロップできるかを識別してください。アプリケーションが、アクセスしているディメンションによって分離できるのであれば、別のコメント・コレクションを作成することもできます。
17873	DB2 Alphablox が WebSphere または WebLogic の背後にインストールされている場合、アプリケーション・サーバーによって提供される Oracle Connection Pooling データ・ソースに対して Comments コレクションを保管しようとする、Comments Collection は正しく保管されない。	アプリケーション・サーバーが提供する Connection Pool データ・ソースを使用する代わりに、DB2 Alphablox の管理ページで作成されるデータ・ソースを使用して接続してください (例: 「管理」タブ -> 「データ・ソース」)。

トラッキング番号	説明	対処法
17200	<p>PresentBlox でコメントを使用可能にする場合、ネストされた</p> <pre>&lt;blox:grid ...   commentsEnabled="true" .../&gt;</pre> <p>タグが &lt;blox:data ...&gt; タグの後に現れると、コメントは正しく使用可能にならない。</p>	<pre>&lt;blox:data ...&gt; タグの前に &lt;blox:grid ...   commentsEnabled="true" .../&gt;</pre> <p>タグを入れます。</p>

## データ・マネージャーおよびデータ接続

トラッキング番号	説明	対処法
14693	<p>DB2 Alphablox がデータ・ソースに接続する方法に起因して、サーバー上で非同期で照会を実行できない。</p>	<p>Java クライアントでの対処法としては、DataBlox の初期照会を設定しないようにし、別のスレッド上で各DataBlox の接続を開始します。必要であれば、DB2 Alphablox Technical Support に連絡してコードのサンプルを要請してください。</p>

## DHTML クライアント

トラッキング番号	説明	対処法
21609	<p>Blox を含むウィンドウを Javascript window.open() 呼び出しで開いた場合、このウィンドウを閉じるときに、ウィンドウから起動したダイアログは自動的に閉じず、開いたままになる。</p>	<p>以下の例のようなコードを追加すると、問題が修正されます。</p> <pre>&lt;script&gt;   window.onbeforeunload = function(){     presentBlox.closeAllDialogs();   } &lt;/script&gt;</pre>
20702	<p>Internet Explorer v5.5 では、CSS を介してブラウザのネイティブ・スクロール・バーの色とスタイルをカスタマイズすると、メニュー項目、ツールバー、またはツールバー・ボタンの上を移動したときに、PresentBlox 内の格子とチャートが PresentBlox 表示域の下部に移動する。</p>	<p>これは、Internet Explorer v5.5 のみで発生する問題であり、v6 の問題ではありません。Internet Explorer 独自の CSS 技法を使用しないようにするか、または、ブラウザが Internet Explorer v5.5 でないときのみカスタム・スタイルを適用してください。</p>
20813	<p>データ・セル、列ヘッダー、および行ヘッダーの GridBlox のボーダー色を &lt;themeName&gt;_DHTML.css 内で設定してから、Blox を PDF にエクスポートすると、GridBlox 全体の背景色も一緒に変更される。</p>	<p>なし。表のボーダーの設定は、Microsoft の属性です。このプロパティに適用される共通の標準はなく、基礎となる PDF エンジンではこの属性がサポートされていません。</p> <p><a href="http://msdn.microsoft.com">http://msdn.microsoft.com</a> の『border-color Attribute   borderColor Property』の文書を参照してください。</p>

トラッキング番号	説明	対処法
19068	Internet Explorer の「ツール」>「インターネット オプション」メニューで、「全般」>「インターネット一時ファイル」>「設定」パネルで、「保存しているページの新しいバージョンの確認」オプションの設定を、デフォルト値の「自動的に確認する」から「ページを表示するごとに確認する」に変更すると、まれに、ブラウザが列を不正確に描画することがある。	設定をデフォルト値の「自動的に確認する」のままにしてください。これは、Internet Explorer の問題です。
17281	!DOCTYPE エレメントを変更して Strict 宣言を指定すると (例えば、<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.0 Strict//EN">)), グリッドの表示が不正確になる。	!DOCTYPE エレメントを指定しないか、あるいは Transitional または Frameset 宣言を使用してください。

## FastForward

トラッキング番号	説明	対処法
16790	複数の FastForward Administrator がテンプレートと同時に更新すると、最後に保管された変更が以前の変更を上書きする。	なし。
16052	FastForward テンプレートは、リレーショナル・キューブに対しては作動しない。	なし。

## Java クライアント

トラッキング番号	説明	対処法
18427	Java VM のバグが原因で、小文字の q が表の中で F2 と同一視される。そのため、ユーザーは「ヘッダーのマージ」ダイアログを使用して小文字の q を表セルに入れることができない。	最初に表セルをダブルクリックして、フォーカスを設定します。すると、小文字の q が受け入れられます。これは Java VM だけで発生する問題です。ユーザーが Sun の Java Plug-in を使用する場合、この問題は起きません。

トラッキング番号	説明	対処法
	<p>Sun Java プラグインと Java ベクトルおよび Enumeration インターフェースとの併用。Java レンダリング・モード用に Java プラグインを使用するユーザーがいる場合に、Blox 上でベクトルを戻すメソッドを呼び出す JavaScript があると、問題を生じることがあります。elements() メソッドによって戻されるオブジェクトは通常、Enumeration インターフェースであり、hasMoreElements() および nextElement() の呼び出しが許可される点に問題があります。ただし、Sun Java プラグインの下では、戻されるオブジェクトは、タイプ Vector\$1 の内部クラスになり、そのオブジェクト上ではどのようなメソッドも呼び出すことはできません。</p>	<p>Enumeration インターフェース上で呼び出されるメソッドだけが失敗します。他のすべてのメソッドは Vector 上で作動します。したがって、size() メソッドを呼び出してエレメントの数を取得し、elementAt(i) メソッドで特定のエレメントを戻すことが可能です。これらのメソッドは問題なく作動します。この問題はバグ・レポートの中で Sun に提出済みですが、解決の見込みは期待していません。さらに、Microsoft VM は、呼び出されるメソッドが整数を必要とする場合、ストリングを自動的に整数に変換します。しかし、Java プラグインはこの変換を実行しません。したがって、アプリケーション開発者は、その種の変換が必要となる状況下では、ストリングを整数に変換する必要があります。</p>

## リレーショナル・キューブ

トラッキング番号	説明	対処法
16049	<p>取り消し/再実行フィーチャーは、DHTML クライアント内のリレーショナル・キューブに接続されているときには正しく作動しない。</p>	<p>リレーショナル・キューブに接続するときは、取り消し/再実行フィーチャーを使用不可にしてください。</p>

## リレーショナル・レポート

トラッキング番号	説明	対処法
22350	<p>双方向言語の場合に Blox を右から左へレンダリングすると、パーセンテージ符号 (%) などの RTL 以外の文字 (Unicode 標準で定義済みのもの) の位置が変わることがあり、そのため、レンダリング後の出力が、ブラウザーに表示されたものと異なる場合がある。</p>	<p>現時点で対処法はありません。現在、PDF レンダリング・エンジンでは、Unicode の両方向アルゴリズムがサポートされていません。</p>
19211	<p>障害 #19186 の解決のため、リレーショナル・レポートでのソート・オプションのトグルは、ソートを昇順で行うか、降順で行うかだけを切り替える。ソート中に欠落値を先頭と末尾のどちらに配置するかを決定するフラグを、isAscending フラグに一致するように変更することはもはやない。</p>	<p>なし。</p>
18997	<p>リレーショナル・レポートで、ページ上でグループ化操作を実行した後にブラウザーの「戻る」ボタンを使用すると、レポートの最初のメンバーでグループ化操作が繰り返される。</p>	<p>なし。</p>

## 印刷での PDF へのレンダリング

トラッキング番号	説明	対処法
22350	双方向言語の場合に Blox を右から左へ (RTL) レンダリングすると、レンダリング後の出力中で、パーセンテージ符号 (%) などの RTL 以外の文字 (Unicode 標準で定義済みのもの) の位置が変わることがある。その結果、PDF 出力が、ブラウザに表示されるものと異なる場合がある。	現時点で対処法はありません。現在、PDF レンダリング・エンジンでは、Unicode の両方向アルゴリズムがサポートされていません。RTL 以外のどの文字がレンダリング後の出力で位置が変わるかは、ブラウザのバージョン、およびそれによってサポートされる Unicode 規格のバージョンに応じて異なります。
17294	WebLogic の背後にインストールしており、WebLogic Server のロギング・レベルを INFO に設定している場合、PDF 生成のときにコンソール上でソケット例外が発生することがある。	このメッセージは無視して大丈夫です。
13617	Web サーバーの背後で DB2 Alphablox を実行しているときに PDF へのレンダリングを使用するためには、完全修飾ホスト名を使用しなければならない。	なし。

## サーバー・サイド・プログラム

トラッキング番号	説明	対処法
19213	setBookmarkFilter および getBookmarkFilter メソッドは、Blox クラスの com.alphablox.blox.Blox から ViewBlox および DataBlox へ移動された。	これらのメソッドは引き続き DataBlox で使用可能であり、すべてのデータ・プレゼンテーション Blox (ChartBlox、DataLayoutBlox、GridBlox、PageBlox、および PresentBlox) は既存のアプリケーションに影響を及ぼしません。ただし、データ・プレゼンテーション Blox を、これら 2 つのメソッドを使用する Blox オブジェクトに型キャストするコードがある場合は、コードの変更が必要です。
18608	メンバー・フィルターでの選択のいずれかが Descendants of <member> などの関数呼び出しである場合、MemberSelectEvent.getNewMemberSelections メソッドは NULL を返す。	JSP でヌル・ポインター例外が起きないようにするため、このメソッドからの NULL 戻り値を検査し、それに応じた処理を行ってください。
13782	タグ属性 AASUserAuthorizedEnabled を使用して AASUserAuthorizedEnabled プロパティにアクセスできない。これは、blox.tld に、プロパティ AASUserAuthorizationEnabled の間違っただ項目が含まれているためである。	JSP タグを使用して AASUserAuthorizationEnabled プロパティにアクセスする際、タグ属性 useAASUserAuthorization を代わりに使用する必要があります。
12380	メソッド waitOnBusy() は、DataBlox から呼び出されたときは作動しない。	可能な場合、waitOnBusy() をデータ・プレゼンテーション Blox (例えば、ChartBlox、GridBlox、PresentBlox) から使用してください。

## Telnet コンソール

トラッキング番号	説明	対処法
21048	DB2 Alphablox の Telnet セッションでは、Telnet クライアントとの通信に UTF-8 が使用される。Windows には、エンコードを UTF-8 に設定する機能がない。その結果、Windows のネイティブの Telnet コンソールは、中国語や日本語などの 2 バイト文字を実行するシステム上で正しく表示されない。	PuTTY などの代替 Telnet クライアントを使用してください。

## WebLogic

トラッキング番号	説明	対処法
18853	IIS を Web サーバーとし、NTLM を認証方式として WebLogic の背後で DB2 Alphablox を実行することは、サポートされる構成である。ただし、「ユーザー」タブを通してユーザーに役割を追加しようとした場合、その役割は適用されない。	そのためには、「役割」タブを使用できます。「役割」タブに移動して、任意の役割 (例えば AlphabloxAdministrator) を選択してください。任意のユーザーを、「選択可能なユーザー (Available Users)」列から「メンバー・ユーザー (Member Users)」列に移動してください。

## WebSphere

トラッキング番号	説明	対処法
17894	DB2 Alphablox が WebSphere 5 の背後にインストールされている場合、DB2 Alphablox ホーム・ページの「管理」タブ > 「アプリケーション」ページから、既存アプリケーションのある種のアプリケーション・パラメーターを編集すると、アプリケーションは即時には更新されない。	アプリケーション・パラメーターを編集して変更を保管すると、単に新しい .ear ファイルが再作成されます。WebSphere Administration ツールを介してこのアプリケーションを「更新」して、変更内容を使ってアプリケーションを再デプロイする必要があります。

## 既知のデータ・ソースの問題と対処法

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.3 に影響を与える DB2 OLAP Server、Hyperion Essbase、および Microsoft OLAP Service の既知の問題を取り上げます。DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase の問題を一覧で示し、それぞれの問題の詳細、例、および対処法を、可能な限り記述します。一部の問題については、テクニカル・サポートに連絡して詳細情報を得る場合の参照のために、トラッキング番号が括弧内に付けられています。DB2 Alphablox と Hyperion のトラッキング番号は、該当する場合、その旨明示されています。また、最新の Essbase パッチの詳細については、Hyperion Technical Support の Web サイトにアクセスすることもできます。

## DB2 OLAP Server と Hyperion Essbase の既知の問題

このセクションでは、DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase データベースの既知の問題の一覧を示します。

- AIX<sup>®</sup> システムでは、ESSLANG 変数は常に英語に設定されます。その設定は Essbase サーバーの設定に一致している必要がありますが、その情報をプログラマチックに取得する方法はないので、DB2 Alphablox を開始する前に、`essbasesetup.sh` 内にロケールを手動で設定する必要があります。`essbasesetup.bat` ファイルは、`<db2alphablox_dir>/bin` 内に置かれています。たとえば、ロケールを日本語に設定するには、ESSLANG 変数を `Japanese_Japan.JapanEUC@Binary` に設定することができます。ただし値ストリングの書式は、`<language>_<territory>.<code page name>@<sortsequence>` です。ロケールの仕様に関する詳細は、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase のデータベース管理者用のガイドを参照してください。
- Hyperion Essbase Deployment Services (EES) 経由で Essbase データ・ソースに接続する場合、Essbase のネイティブのドリルスルー・レポートの数値が誤ってストリングとして戻されます。これは Hyperion の問題です。予備手段として、EES を迂回し、ネイティブな方法で Essbase に接続してください。(Hyperion ケース #370427、DB2 Alphablox トラッキング #18668)
- Essbase `essbase.cfg` 構成ファイルで、SSLOGUNKNOWN プロパティがデフォルト値から FALSE に変更されている場合に、ブックマークを検索すると、もう存在しないメンバーが一括表示に表示されることがあります。この問題を回避するには、SSLOGUNKNOWN プロパティをデフォルト値の TRUE のままにしておきます。そうすれば、DB2 Alphablox は問題を検出し、適切なエラー・メッセージを戻します。(DB2 Alphablox トラッキング #17941)。
- クエリー・ビルダーを使用して Essbase データ・ソースに対する照会を構成する際に、数値 (例えば 400) として表示される算出列名を使用すると、算出列エラーが戻されます。予備手段として、算出列を非数値に名前変更してください。(DB2 Alphablox トラッキング #14491)。
- メンバーに対して {RENAME} コマンドを使用すると、グリッド内の対話性が失われます (ドリルダウンできません)。また、ページ軸内のメンバーに対する変更はいずれも無視され、名前変更されたメンバーはチャートに表示されません。(DB2 Alphablox トラッキング #12591)。
- レポート仕様に ORDERBY コマンドを使用すると、コマンドで区切られた個別のメンバーのリストとしてではなく、連結されたストリングとしてメンバーが戻されます。これはエラーの原因になります。Hyperion ケース #120488。
- レポート仕様で { PRINTROW "n" } を <PAGE メンバー文節と共に使用すると、エラーが発生します。Hyperion ケース #183804。

## Microsoft Analysis Services の既知の問題

### 特定の接続ストリングを使用して接続する場合

DB2 Alphablox から MSAS データ・ソースへの接続での既知の問題があります。それは、以下の例のように接続ストリングを設定したときに、DB2 Alphablox をサービスとして開始すると発生します。

```
MSOLAP;Execution Location=3;Client Cache Size=0;
```

この変更は、MSAS データ・ソース定義用の Alphablox 管理ページにある Provider フィールドを変更することによって行われます。DB2 Alphablox をコンソール・アプリケーションとして開始することをお勧めします。しかし、それをサービスとして開始する必要がある場合は、以下の指示に従ってください。DB2 Alphablox を接続するためには、DB2 Alphablox Service を開始するログオン・アカウントを変更する必要があります。そうしないと、無効パラメーター・エラーが出されます。

1. コントロール・パネルから「管理ツール」フォルダーをオープンし、「サービス」を選択します。
2. DB2 Alphablox サービス用のプロパティーを表示します。
3. 「ログオン」タブを選択し、「このアカウント」ラジオ・ボタンを選択します。
4. ドメイン・アカウントを選択します。このドメイン・アカウントでは、ローカル・セキュリティの設定が「サービスとしてログオン」になっている必要があります。そうならない場合は、コントロール・パネルから「管理ツール」フォルダーをオープンし、「ローカル・セキュリティ・ポリシー」を選択して、このドメイン・アカウントに必要な権限を与えてください。

これで、DB2 Alphablox は MSAS データ・ソースと接続することができますが、データ・ソースへの接続に使用されるユーザー名とパスワードは前述のドメイン・アカウントになります。これは既知の問題であり、調査中です。

### OLAP Service と認証

Microsoft Analysis Services は、Windows ベースの認証を使用します。Microsoft SQL Server OLAP Service にアクセスする DB2 Alphablox アプリケーションで Windows ベースの認証を使用するには、DB2 Alphablox から Microsoft OLAP Service に渡される userName およびパスワード・プロパティーが Windows® のユーザーとパスワードでなければなりません。

DB2 Alphablox および Microsoft SQL Server OLAP Service がそれぞれ異なるドメイン内にある場合、それらは信頼された Windows ドメインでなければなりません。

OLAP Service や Analysis Services にアクセスするように Windows マシンをセットアップする場合の詳細は、「管理者用ガイド」を参照してください。

### 別のロケールのユーザーとしてのインストール

ログインするユーザーのロケールがマシンのロケールと異なるようなマシンでインストールしている場合、MDAC コンポーネントがインストールされているかどうかを DB2 Alphablox は正しく判別できません。この問題が発生した場合は、ロケールをマシンのロケールに合わせて設定してください。(DB2 Alphablox トラッキング #13294)

---

## 第 8 章 使用すべきでない API

この章では、使用すべきでないプロパティ、メソッド、クラス、または URL 属性と、それらを使用すべきでないとされているリリース、使用すべきでない機能の代替機能の一覧を示します。

使用すべきでない API は、ある限定された期間中はサポート対象ですが、製品の戦略的な方向付けにはもう関与しません。可能な限り速やかに使用を停止することをお勧めします。特に明示的な指示がない限り、使用すべきでない API のサポートを受けられるのは、3 回のメジャー・リリースの期間中です。それには、使用すべきでないことを発表したリリース・ノートも含まれます。メジャー・リリースとは、たとえば 3.0.0 または 3.5.0 などのことです。マイナー・リリースとは、たとえば 3.0.1 などです。

使用すべきでない API が DB2 Alphablox で検出されるたびに、警告メッセージがブラウザー・コンソールに表示されます。そのメッセージを利用して、変更を必要とするアプリケーション・ページを特定してください。

注: Relational Reporting 内の使用すべきでないタグの詳細は、「Relational Reporting 開発者用ガイド」を参照してください。

---

### リリース 8.3 - 使用すべきでない API

使用すべきでない API と変更された API の完全リストの詳細は、DB2 Alphablox ホーム・ページ上のヘルプ・リンクからアクセスできる API 変更リストを参照してください。以下の表には、DB2 Alphablox 8.2.1 以降に変更された API のみが示されています。

除去されたメソッド	新メソッド
com.alphablox.personalization.IUser 内の isUserInRole()	置換なし

使用すべきでないメソッド	新メソッド
com.alphablox.blox.repository.Cube 内の以下のメソッド • createCubeDefinition() • getDataSourceName() • setDataSourceName()	AdminBlox メソッドに置き換えられるもの: createCubeDefinition()、getDataSourceName()、および setDataSourceName()

使用すべきでないメソッド	新メソッド
<p>DateChooser 内の以下のメソッド:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• getImageURL()</li> <li>• getSelectedDate()</li> <li>• isThemeBasedImage()</li> <li>• setDateFormat(int)</li> <li>• setImageURL(String)</li> <li>• setSelectedDate(Date)</li> <li>• setThemeBasedImage(boolean)</li> </ul>	<p>置き換え後のメソッド:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• getIcon().getImageURL()</li> <li>• getCalendar() または getMilliseconds()</li> <li>• dateChooser.getIcon().isThemeBasedImage()</li> <li>• 代わりに setMilliseconds() を使用します。</li> <li>• getIcon().setImageURL(String imageURL)</li> <li>• 置換なし。コンストラクターに渡された IDateFormat に対して任意のフォーマット・スタイルを代わりに設定します。</li> <li>• dateChooser.getIcon().isThemeBasedImage()</li> </ul>
<p>com.alphablox.blox.uimodel.core.Style 内の以下のメソッド:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• isRoundedBorderCornersEnabled()</li> <li>• setRoundedBorderCornersEnabled(boolean)</li> </ul>	<p>置換なし。</p>
<p>com.alphablox.blox.form.SelectFormBlox 内の以下のメソッド:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• isMultiple()</li> <li>• setMultiple(boolean)</li> </ul> <p>注: multiple プロパティおよびタグ属性も使用すべきではありません。</p>	<p>isMultipleSelect()、 setMultipleSelect()、 multipleSelect プロパティおよびタグ属性。</p>

## リリース 8.2.1 - 使用すべきでない API

WebSphere Portal にサポートが追加されたため、要求と応答の処理方法に変更を加える必要があります。一般規則として、これまで `HttpServletRequest` および `HttpServletResponse` を受け入れていたすべてのメソッドは、`BloxRequest` および `BloxResponse` をパラメーターとするようになります。Web アプリケーション・サーバーまたはポータル・サーバーのどちらから要求が出されても、`BloxRequest` および `BloxResponse` が要求および応答を処理します。

使用すべきでない API と変更された API の完全リストの詳細は、DB2 Alphablox ホーム・ページ上のヘルプ・リンクからアクセスできる API 変更リストを参照してください。

使用すべきでないメソッド	新メソッド
<p>com.alphablox.blox.repository.Application (AdminBlox からアクセス可能) 内の次のようなメソッドは、使用すべきでないものです。</p> <p>getContextName()、 getEntApp()</p>	<p>getJ2EEAppName()、 getModuleName()</p>
<p>以下の共通 Blox メソッドは、使用すべきでないメソッドです。</p> <p>render()、 renderHtmlHeader()</p>	<p>render()、 renderHtmlHeader() (別々のパラメーター)</p>

使用すべきでないメソッド	新メソッド
<p>com.alphablox.blox.pdfreport.PDFReport クラスには、次のような使用すべきでないメソッドがあります。</p> <p>addButton()、getBlox()、getBloxList()、getPrintable()、resetPrintable()、setPrintable()</p>	<p>どのメソッドも、HttpSession の代わりに BloxSession を、HttpServletRequest の代わりに BloxRequest をパラメーターとするようになりました。Blox サーバー・サイドの API 変更リストを参照してください。</p>

## リリース 8.2 - 使用すべきでない API

このリリースでは、使用すべきでない API はありません。

## リリース 5.6 - 使用すべきでない API

使用すべきでない API はありません。次のように、DataSourceSelectFormBlox には使用すべきでないフィールドがあります。

DataSourceSelectFormBlox の使用すべきでない定数	DataSourceSelectFormBlox の新しい定数
<p>IBMDB2JDBCdriver</p> <p>フィールド値: IBM DB2 JDBC ドライバー</p>	<p>DB2Driver</p> <p>フィールド値: IBM DB2 JDBC ドライバー</p>
<p>OracleType4Driver</p> <p>フィールド値: Oracle タイプ 4 ドライバー</p>	<p>OracleDriver</p> <p>フィールド値: Oracle ドライバー</p>
<p>SybaseJConnectDriver</p> <p>フィールド値: Sybase JConnect ドライバー</p>	<p>SybaseDriver</p> <p>フィールド値: Sybase SQL サーバー・ドライバ</p>
<p>WebLogicMS_SQLServerDriver</p> <p>フィールド値: WebLogic MS-SQL Server ドライバー</p>	<p>MSSQLDriver</p> <p>フィールド値: Microsoft SQL Server ドライバー</p>

## リリース 5.5 - 使用すべきでない API

使用すべきでないメソッド	新メソッド
<p>イベント事前処理を追加するのに使用されていた次のようなサーバー・サイド・メソッドは、今後は使用すべきではありません。</p> <p>addBookmarkDeleteFilter()、 removeBookmarkDeleteFilter()、 addBookmarkLoadFilter()、 removeBookmarkLoadFilter()、 addBookmarkRenameFilter()、 removeBookmarkRenameFilter()、 addBookmarkSaveFilter()、 removeBookmarkSaveFilter()、 addCollapseFilter()、 removeCollapseFilter()、 addDrillDownFilter()、 removeDrillDownFilter()、 addDrillThroughFilter()、 removeDrillThroughFilter()、 addDrillUpFilter()、 removeDrillUpFilter()、 addExpandFilter()、 removeExpandFilter()、 addHideOnlyFilter()、 removeHideOnlyFilter()、 addKeepOnlyFilter()、 removeKeepOnlyFilter()、 addMemberSelectFilter()、 removeMemberSelectFilter()、 addPivotFilter()、 removePivotFilter()、 addQueryFilter()、 removeQueryFilter()、 addRemoveOnlyFilter()、 removeRemoveOnlyFilter()、 addShowAllFilter()、 removeShowAllFilter()、 addShowOnlyFilter()、 removeShowOnlyFilter()、 addSwapAxisFilter()、 removeSwapAxisFilter()</p>	<p>addEventFilter()、 removeEventFilter()</p>
<p>イベント事後処理を追加するのに使用されていた次のサーバー・サイド・メソッドは、今後は使用すべきではありません。</p> <p>addChartPageFilter()、</p>	<p>addEventListener()、 removeEventListener()</p>
<p>以下の RepositoryBlox サーバー・サイド・メソッドは、今後は使用すべきではありません。</p> <p>getUsersGroup()</p>	<p>getGroupName()(AdminBlox のユーザー・オブジェクト)</p>

## リリース 5.1 - 使用すべきでない API

<blox:clustered> タグは、使用すべきでないタグになりました。このタグは、Tomcat の下にあっても Resonate Central Dispatcher ソフトウェアを実行するクラスタリング環境で使用されていました。スタンドアロンのクラスタリング・ソリューションは今後はサポートされません。

## リリース 5.0 - 使用すべきでない API

このリリースでは、使用すべきでない API はありません。

## リリース 4.1.1 - 使用すべきでない API

使用すべきでないプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)	新しいプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)
suppressMissing、isSuppressMissing()、setSuppressMissing()	置換なし。代わりに使用するもの: suppressMissingRows、suppressMissingColumns

## リリース 4.1 - 使用すべきでない API

このリリースでは、使用すべきでない API はありません。

## リリース 4.0 - 使用すべきでない API

使用すべきでないプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)	新しいプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)
cellAlerts、 setCellAlerts()	置換なし。代わりに使用するもの: cellAlert、getCellAlert()、 setCellAlert()
dataLayoutVisibleAtStartup	置換なし。代わりに使用するもの: dataLayoutAvailable、isDataLayoutAvailable( )、setDataLayoutAvailable( )
dataRowsInFirstPage、 getDataRowsInFirstPage()、setDataRowsInFirstPage()	置換なし。
datasource、 setDataSource( )	bloxDatasource、 setBloxDataSource( )
dimensionsOnPageAxis、 getDimensionsOnPageAxis()、setDimensionsOnPageAxis()	selectableSlicerDimensions、getSelectableSlicerDimensions()、setSelectableSlicerDimensions()
getAlertEnabled()	isAlertEnabled()
getAlwaysShowLastColumn()	isAlwaysShowLastColumn()
getAlwaysShowLastRow()	isAlwaysShowLastRow()
getAutoAxesPlacement()	isAutoAxesPlacement()
getChartAbsolute()	isChartAbsolute()
getChartFirst()	isChartFirst()
getDataTextDisplay()	isDataTextDisplay()
getDrillKeepSelectedMember()	isDrillKeepSelectedMember()
getDrillRemoveUnselectedMembers()	isDrillRemoveUnselectedMembers()
getDwellLabelsEnabled()	isDwellLabelsEnabled()
getEnableKeepRemove()	isEnableKeepRemove()
getEnableShowHide()	isEnableShowHide()
getExpandCollapseMode()	isExpandCollapseMode()
getGridLinesVisible()	isGridLinesVisible()
getGroupSmallValues()	isGroupSmallValues()
getHeadingIconsVisible()	isHeadingIconsVisible()
getHeadingsEnabled()	isHeadingsEnabled()

使用すべきでないプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)	新しいプロパティまたはメソッド (クライアント・サイド)
getHidePlusMinus()	isHidePlusMinus()
getMustIncludeZero()	isMustIncludeZero()
getOnErrorClearResultSet()	isOnErrorClearResultSet()
getPaginate()	isPaginate() setPaginate()
getParentFirst()	isParentFirst()
getPerformInAllGroups()	isPerformInAllGroups()
getRelationalRowNumbersOn()	isRelationalRowNumbersOn()
getRowHeadingsVisible()	isRowHeadingsVisible()
getRowsOnXAxis()	isRowsOnXAxis()
getShowColumnDataGeneration()	isShowColumnDataGeneration()
getShowRowDataGeneration()	isShowRowDataGeneration()
getSuppressDuplicates()	isSuppressDuplicates()
getSuppressMissing()	isSuppressMissing()
getToolbarFloatable()	isToolbarFloatable()
getUseAliases()	isUseAliases()
getUseSeriesShapes()	isUseSeriesShapes()
getWritebackEnabled()	isWritebackEnabled()
headerStyle、 setHeaderStyle( )、 getHeaderStyle( )	headingStyle、 setHeadingStyle( )、 getHeadingStyle( )
multipleDimensions、 getMultipleDimensions( )、 setMultipleDimensions( )	置換なし。代わりに使用するもの: autoAxesPlacement、 isAutoAxesPlacement( )、 setAutoAxesPlacement( )
noAccessString	noAccessValueString、 getNoAccessValueString( )、 setNoAccessValueString( )
splitLocation	dividerLocation setDividerLocation( )
suppressZeroRows、 getSuppressZeros( )、 getSuppressZeroRows( )、 setSuppressZeroRows( )	suppressZeros、 isSuppressZeros( )、 setSupperssZeros()
useAASAuthorization、 setUseAASAuthorization( )、 getUseAASAuthorization( )	AASUserAuthorizationEnabled、 setAASUserAuthorizationEnabled( )、 isAASUserAuthorizationEnabled()

使用すべきでないクラス (サーバー・サイド)	代わりに使用するもの (サーバー・サイド)
ServerDataBlox	DataBlox Bean
ServerRepositoryBlox	RepositoryBlox

今後はサポートされない URL 属性
bookmark
browser
height
grid_scrollbars
left
top

今後はサポートされない URL 属性
--------------------

width
-------



## 第 9 章 資料

IBM では DB2 Alphablox の資料について、資料のフィックスパックの作成とその他の資料の更新を定期的実施する場合があります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/alphablox/library.html> の DB2 Alphablox ライブラリーには常に、最新の情報および技術情報と白書への追加リンクがあります。

IBM Web サイトの <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/ablxhelp/8.3/index.jsp> DB2 Alphablox インフォメーション・センターは、PDF またはハードコピー資料よりも頻繁に更新されています。

### 柔軟性の高いインストール・オプション

以下のオプションから各自のニーズに最も適したものを使用して、the DB2 Alphablox の資料を表示してください。

- ご使用の資料を常に最新に保つために、すべての資料には、IBM Web サイトでホストされている DB2 Alphablox インフォメーション・センターから直接アクセスしてください。管理ページから、インフォメーション・センターおよび DB2 Alphablox Javadoc へのすべてのリンクは、デフォルトでは最新の情報を掲載している IBM Web サイトにつながっています。
- イン트라ネット上の 1 つのサーバー上に、DB2 Alphablox 資料をインストールしておけば、ネットワーク・トラフィックをイン트라ネット内部に限定することができます。DB2 Alphablox 資料のインストーラーには、以下の 2 つのオプションが用意されています。
  - 「既存の DB2 Alphablox インストール下にインストールします」オプションでは、既存の DB2 Alphablox インストール内容の下に資料をインストールできます。このオプションを使用すると、DB2 Alphablox の管理ページからインフォメーション・センターおよび Javadoc へのすべてのリンクは、このローカル側でインストールされたバージョンにつながるように自動的に変更されます。
  - 「スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールします」オプションでは、資料を DB2 Alphablox インスタンスに関連付けずに任意の場所にインストールすることができます。それによって、Windows システムでのアプリケーション開発中に、資料にアクセスできるようになるので便利です。DB2 Alphablox の管理ページからインフォメーション・センターへのリンクをこのスタンドアロンのインストールにつなげる場合、必ずイン트라ネット上のサーバーにスタンドアロンのインフォメーション・センターをインストールしてください。その後、『スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール』の説明に従ってリンクを変更することができます。

注: ローカル・システムにインフォメーション・センターをインストールした場合、それにアクセスするには、まず始動する必要があります。Windows システムでは、作成したショートカットを使用します。Linux システムおよび UNIX システムでは、`IC_start.sh` スクリプトを実行します。ショートカットについ

てと、ファイルのインストール先の場所については、『スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール』に説明されています。

## 既存の Alphablox インストール先へのインストール

資料インストーラーを実行して「既存の Alphablox インストール下にインストールします」オプションを選択すると、DB2 Alphablox の管理ページからのインフォメーション・センターおよび Javadoc へのすべてのリンクが必ずインストール済みのバージョンに自動的につながるように変更されます。

表 1. 既存の Alphablox インストール下にインストールする場合の資料のインストール場所

コンポーネント	場所	エントリー・ページ
インフォメーション・センター	<alphablox_dir>/InfoCenter	ic.html  (インフォメーション・センターを開始するには、IC_start.bat または IC_start.sh を実行します。)
DB2 Alphablox Blox API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/javadoc/blöx	index.html
Blox API 変更リスト	<alphablox_dir>/system/documentation/javadoc/blöx	changes.html
FastForward API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/javadoc/fastforward	index.html
Relational Reporting API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/javadoc/report	index.html

何らかの理由で IBM ホスト・インフォメーション・センターに切り替えたり、別のシステムに資料をインストールしたりすることが必要になった場合、56 ページの『インフォメーション・センターおよび Javadoc へのリンクの構成』を参照してください。

## スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール

資料インストーラーを実行して「スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールします」オプションを選択すると、インフォメーション・センターと Javadoc は、指定したディレクトリーにインストールされます。そうすると、イントラネット内の別のシステム上の資料にサービスを提供したり、ご自身の開発システム上の資料により簡単にアクセスしたりできるようになります。

Windows システムでは、それによって以下のショートカットを含む「**IBM DB2 Alphablox Online Documentation**」プログラム・グループが作成されます。

- 資料

- インフォメーション・センター
- インフォメーション・センターの開始
- インフォメーション・センターの停止 (Stop Information Center)

• Javadoc

- Blox API
- Blox API 変更リスト (Blox API Change List)
- FastForward API
- Relational Reporting API

注: 資料または Javadoc のサブセットだけのインストールを選択した場合、ショートカットが異なることがあります。

注: Linux システムまたは UNIX システムでは、ショートカットは作成されません。各資料コンポーネントの場所とエントリー・ページの詳細は、以下の表を参照してください。

表 2. スタンドアロン・インストールの場合の資料のインストール場所

コンポーネント	場所	エントリー・ページ
インフォメーション・センター	<alphablox_doc_install>	インフォメーション・センターを開始するには、IC_start.bat または IC_start.sh を実行します。インフォメーション・センターの起動方法の詳細は、下の注記を参照してください。
DB2 Alphablox Blox API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/blox	index.html
Blox API 変更リスト	<alphablox_doc_install>/javadoc/blox	changes.html
FastForward API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/fastforward	index.html
Relational Reporting API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/report	index.html

注: インフォメーション・センターを起動するには、次のようにします。

- ブラウザー・ウィンドウで、[http://127.0.0.1:port\\_number/help/index.jsp](http://127.0.0.1:port_number/help/index.jsp) にアクセスします。ポート番号は、インストール中に指定したものです。ポート番号を覚えていない場合は、IC\_start.bat または IC\_start.sh ファイルをテキスト・エディターで開けば、番号情報が見つかります。-port オプションの後の番号は、インフォメーション・センターのポート番号です。

- Windows システムでは、「IBM DB2 Alphablox Online Documentation」プログラム・グループの下に作成した「インフォメーション・センター」ショートカットを使用することもできます。

スタンドアロンのインフォメーション・センターを指すように DB2 Alphablox インスタンスを構成する必要がある場合は、『インフォメーション・センターおよび Javadoc へのリンクの構成』を参照してください。

## インフォメーション・センターおよび Javadoc へのリンクの構成

インストールした DB2 Alphablox 内の以下のファイルを手動で変更して、資料をインストールする場所を指定することができます。これらのファイルはすべて、`<alphablox_dir>/system/documentation/` の下にあります。

表 3. 資料へのカスタム・リンクのために構成するファイル

管理ページからのリンク	指定先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	ic.html
Blox API Javadoc	jdoc_blox.html
Blox API 変更リスト Javadoc	jdoc_change.html
FastForward API Javadoc	jdoc_ffwd.html
Relational Reporting API Javadoc	jdoc_report.html

同じディレクトリー内に、各エントリー・ページごとに他のバージョンが 2 つずつあります。1 つは IBM ホスト・バージョン (`_hosted.html`) を、もう 1 つは、ローカル側でインストールされたバージョン (`_local.html`) を指します。

### IBM ホスト資料への切り替え

IBM ホストのインフォメーション・センターおよび Javadoc に切り替える必要がある場合、以下の表に示されているとおりに、同じディレクトリー内のエントリー・ページのホスト・バージョンを、指定されたファイルに上書きコピーします。その際、ファイル名から `_local` を除去します。

表 4. IBM ホスト資料について使用するファイル

管理ページからのリンク	コピー元のファイル	コピー先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	ic_hosted.html	ic.html
Blox API Javadoc	jdoc_blox_hosted.html	jdoc_blox.html
Blox API 変更リスト Javadoc	jdoc_change_hosted.html	jdoc_change.html
FastForward API Javadoc	jdoc_ffwd_hosted.html	jdoc_ffwd.html
Relational Reporting API Javadoc	jdoc_report_hosted.html	jdoc_report.html

### ローカル側でインストールされている資料への切り替え

既存の DB2 Alphablox インストール内容の下にインストールされている資料に切り替える必要がある場合、以下の表に示されているとおりに、同じディレクトリー内

のエントリー・ページの `_local.html` バージョンを、指定されたファイルに上書きコピーします。その際、ファイル名から `_local` を除去します。

表 5. 既存の使用DB2 Alphablox インストール内容の下にインストールされる資料について使用するファイル

管理ページからのリンク	コピー元のファイル	コピー先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	<code>ic_local.html</code>	<code>ic.html</code>
Blox API Javadoc	<code>jdoc_blox_local.html</code>	<code>jdoc_blox.html</code>
Blox API 変更リスト Javadoc	<code>jdoc_change_local.html</code>	<code>jdoc_change.html</code>
FastForward API Javadoc	<code>jdoc_ffwd_local.html</code>	<code>jdoc_ffwd.html</code>
Relational Reporting API Javadoc	<code>jdoc_report_local.html</code>	<code>jdoc_report.html</code>

## スタンドアロン・インフォメーション・センターへの切り替え

イントラネット上の別個のサーバー上に DB2 Alphablox 資料をインストールしており、DB2 Alphablox の管理ページからのリンクを構成し、そのインストール先を指すようにする場合、以下のようにします。

1. `ic_hosted.html` を `ic.html` に上書きコピーします。
2. ページの `<meta>` タグ内の URL 値を、次のように変更してリダイレクトします。

```
<meta http-equiv="REFRESH" content="0; URL=http://server:port/help/index.jsp">
```



---

## 第 10 章 アクセシビリティ

アクセシビリティ・フィーチャーは、運動障害または視覚障害など身体障害のあるユーザーがソフトウェア・プロダクトをうまく使用するための機能です。DB2 Alphablox のアクセシビリティ・フィーチャーは、次のように大別されます。

- ユーザーは、キーボード・ショートカットとアクセラレーターを使用することにより、Blox ユーザー・インターフェース内をナビゲートしてデータ分析アクションを実行できます。
- 視覚障害のあるユーザーは、DHTML クライアント内の Blox ユーザー・インターフェースをハイコントラスト・テーマでレンダリングできます。
- ハイコントラスト・テーマを使ってレンダリングされた Blox ユーザー・インターフェースでは、ブラウザで設定されたフォント・サイズの表示設定が使用されます。
- ユーザーは、キーボード・ショートカットを使用することにより、ReportBlox で作成されたリレーショナル・レポートをナビゲートして対話することができます。
- 管理ユーザーはキーボード・ショートカットを使用することにより、DB2 Alphablox 管理ページ内をナビゲートして管理作業を実行できます。
- DB2 Alphablox のインフォメーション・センターは、大半のブラウザでサポートされている XHTML 1.0 フォーマットになっています。
- DB2 Alphablox のインフォメーション・センターとエンド・ユーザー・オンライン・ヘルプでは、ブラウザで設定されたフォント・サイズの表示設定が使用されます。

**重要:** アクセシビリティは、Internet Explorer 6.0 でのみサポートされます。

### キーボード・ナビゲーション

アプリケーションのユーザーは、キーボードだけを使用して、Blox ユーザー・インターフェース内のデータのナビゲートおよび対話を実行できます。マウスを使って実行できる操作を、キーまたはキーの組み合わせを使用して実行できます。一般にキー・ストロークは、Windows の標準のキーボード・ショートカットに沿ったものです。また、キーボード・ナビゲーションは、ReportBlox を使って作成された対話式レポートでもサポートされます。詳細は、『Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカットとアクセラレーター』および『ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカット』を参照してください。

### アクセス可能な表示

DHTML クライアントには、ユーザーが Internet Explorer を使ってナビゲートしてデータ分析アクションを実行するためのキーボード・ショートカットが用意されています。視覚障害のあるユーザーの場合、用意されたハイコントラスト・テーマに Blox ユーザー・インターフェースをレンダリングでき、ブラウザで指定したフォント・サイズ設定も考慮されます。視覚障害のあるユーザー用に、アプリケーション開発者はハイコントラスト・テーマ (theme=highcontrast) を使ってアプリケーシ

ョンをレンダリングできます。これは、カスタム・ユーザー・プロパティなどのユーザー・プロファイルを使って実現できます。

## 支援テクノロジーとの互換性

スクリーン・リーダーやその他の支援テクノロジーを使用して、Blox ユーザー・インターフェースまたはリレーショナル・レポート内のデータを読むことができます。

## アクセス可能な資料

DB2 Alphablox インフォメーション・センターは、ほとんどの Web ブラウザーでサポートされている XHTML 1.0 フォーマットで表示されます。XHTML の場合、ブラウザーで設定した表示設定のまま資料を表示できます。また、スクリーン・リーダーやその他の支援テクノロジーも使用できます。

## 制限事項

Blox ユーザー・インターフェースにおいてサポートされているアクセシビリティ・サポートには、次のような制限事項があります。

- Blox ユーザー・インターフェースをナビゲートするためのキーボード・ショートカットは、Internet Explorer 6 ブラウザーでのみサポートされる。
- チャート・コンポーネントには、キーボードを使用してアクセスできない。身体的障害のあるユーザーの場合、チャート・コンポーネントを PresentBlox から除去する (chartAvailable = "false") か、または格子コンポーネントだけを使用するようお勧めします。
- ツールバー・コンポーネントと、ツールバー上のツールバー・ボタンには、キーボードを使ってアクセスできない。身体的障害のあるユーザーの場合、ツールバーを非表示にする (toolbarVisible="false") ことをお勧めします。基本的にツールバーのボタンは、メニュー・バーから使用できる機能のサブセットへのショートカットであるため、ツールバーが表示されていなくても機能が失われることはありません。

詳細は、「開発者用ガイド」の『アクセス可能アプリケーションの設計』のトピックを参照してください。

---

## Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカットとアクセラレーター

Blox ユーザー・インターフェース内をナビゲートしてデータと対話するのに使用するキー・ストロークは、一般的に Windows の標準のキーボード・ショートカットに対応しています。以下の点に注意してください。

- キーボード・ショートカットは、Internet Explorer ブラウザーでのみサポートされます。
- チャート・コンポーネント内のナビゲートではキーボード・ショートカットは、サポートされません。

Blox ユーザー・インターフェースは通常、データを表す格子やチャートなどの特定のユーザー・インターフェース・コンポーネントと、メニュー・バー、ドロップダ

ウン・リスト、またはボタンなどのユーザー・コントロールで構成されています。ユーザー・コントロールを使って、データ分析アクションを実行することができます。以下は、Blox ユーザー・インターフェースを使用するための一般的なキーボード・ショートカットです。

表6. 一般的なキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
次または前のユーザー・コントロールまたはユーザー・コンポーネントのセットに移動する	Tab および Shift + Tab を使用して前方および後方に移動します。  たとえば、PresentBlox でタブを押すと、メニュー・バーからページ・フィルターへ、次にデータ・レイアウト・パネルへ、さらにグリッドへ移動します。
コントロール・セット内で次または前の項目に移動する	メニュー・バー内の個々のメニュー項目、グリッド内のデータ・セル、またはセット内のラジオ・ボタンの間を移動するには、矢印キーを使用します。
ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを選択または選択解除する	スペース・バーを使用します。
ボタンを選択してクリックする	Tab および Shift + Tab を使用して次または前のボタンに移動します。  選択したボタンのクリック操作をシミュレートするには Enter を押します。  キャンセルするには Esc を押します。
選択したメニュー項目またはボタンを実行する (ボタンのクリック操作に相当する)	Enter キーまたはスペース・バーを使用します。
ニーモニックを使用してアクティブ・メニュー内のメニュー項目を選択する	メニュー項目内の下線が引かれた文字を押して、それを選択します。
Blox 内にいるときにメニュー・バーに移動する	Ctrl + Alt + M を押します。

表7. 格子内のナビゲーションとデータ分析

アクション	ショートカット
格子内のさまざまなデータ・セルへナビゲートする	タブを押して格子に移動し、格子全体が選択されているときに、下矢印キーを押してデータ・セルに入ります。これで、矢印キーまたは Tab キーのいずれかを使用してセル間の移動が行えるようになります。
格子のデータ・セル内で右マウス・ボタン・クリック・メニューを起動する	Shift + F10 を押します。
格子データ・セル内にいるときにフォーカスを格子全体に戻す	Esc を押します。  すると、格子全体にフォーカスが置かれます。これで、他のコントロールまたはコンポーネントにタブ移動できるようになります。

表7. 格子内のナビゲーションとデータ分析 (続き)

アクション	ショートカット
ページ・フィルターなどでドロップダウン・リストを活動化する	ALT+ 下矢印キーを押します。
Blox 内にいるときにメニュー・バーに移動する	Ctrl + Alt + M を押します。

表8. ツリー・メニューのナビゲーション

アクション	ショートカット
ツリー・メニュー内をナビゲートする	上矢印キーと下矢印キーを使用します。
ツリー内の縮小表示されているノードを展開する	右矢印キーを押します。
ツリー内の展開されているノードを縮小表示する	左矢印キーを押します。

注: スクリーン・リーダー・プログラムを使用する場合、スクリーン・リーダーがキーボードに対して制御を行うため、ここで説明されているショートカットは適用されない場合があります。

## ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカット

ReportBlox を使用して作成された対話式レポート内をナビゲートするのに使用するキー・ストロークは、一般的に Windows の標準のキーボード・ショートカットに対応しています。以下の表は、ReportBlox の対話式コンテキスト・メニューの使用時と、「レポート・スタイル」ダイアログを使用したレポートのスタイルの設定時のキーボード・ショートカットを一覧で示しています。

表9. ReportBlox の対話式メニューの一般的なキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
次または前のグループ・ヘッダー、列ヘッダー、またはグループ合計コンテキスト・メニューに移動する	Tab および Shift + Tab を使用します。  ホット・スポットにタブ移動するとコンテキスト・メニューは自動的にドロップダウンします。
メニュー項目を選択する	矢印キーを使用して必要な項目に移動し、Enter を押します。

表10. 「レポート・スタイル」ダイアログのキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
コントロール間をナビゲートする	Tab および Shift + Tab を使用して前方および後方に移動します。
ドロップダウン・リストを活動状態にする	Alt + 下矢印を使用します。  上矢印キーおよび下矢印キーを使用してスクロールし、ドロップダウン・リストを展開せずに選択を行うこともできます。

表 10. 「レポート・スタイル」ダイアログのキーボード・ショートカット (続き)

アクション	ショートカット
ドロップダウン・リスト内の項目を選択する	上矢印キーおよび下矢印キーを使用して必要な項目に移動します。Enter を押すか、または Tab を押して選択を設定し、次のコントロールに移動します。
ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを選択または選択解除する	スペース・バーを使用します。
変更を適用する	Enter を押します。
キャンセルする	Esc を押します。

注: キーボード・ショートカットは、Internet Explorer ブラウザーでのみサポートされます。

注: スクリーン・リーダー・プログラムを使用する場合、スクリーン・リーダーがキーボードに対して制御を行うため、ここで説明されているショートカットは適用されない場合があります。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Corporation, J46A/G4, 555 Bailey Avenue, San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

1-2-3 <sup>®</sup>	AIX	AIX 5L
Cube Views	DB2	DB2 OLAP Server
DB2 Universal Database	IBM	Informix
iSeries	pSeries	Rational
Red Brick	Tivoli	WebSphere

Alphablox および Blox は、Alphablox Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。







プログラム番号: 5724-L14

Printed in Japan

SD88-6691-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12